



GLORY writes a new STORY

グローリー株式会社
会社説明資料

【証券コード】

6457

【上場取引所】

東京証券取引所 プライム市場

01 グローリーとは



流通・金融・飲食の店舗DXを支援するトータルソリューション企業

キャッシュオートメーションをベースに
店舗の業務効率化と売上向上に繋がる製品・サービスを展開



流通店舗向け

- ・レジつり銭機
- ・現金管理システム
- ・クラウドPOS
- ・データ活用サービス



金融機関向け

- ・オープン出納システム
- ・テラーキャッシュリサイクラー
- ・遠隔接客サービス
- ・モニタリングサービス
- ・金融シェアードサービス



飲食店向け

- ・セルフサービスキオスク
- ・ドライブスルー
- ・テーブルオーダーサービス
- ・モバイルオーダーサービス

社名	グローリー株式会社
上場	プライム市場（証券コード 6457）
創業	1918年（大正7年）3月
資本金	128億9,200万円
本社所在地	兵庫県姫路市下手野1丁目3番1号

連結売上高



3,690億円

営業利益率



9.5%

海外売上高比率



56.9%

従業員数



11,392人

識別通貨種類



3,100種類

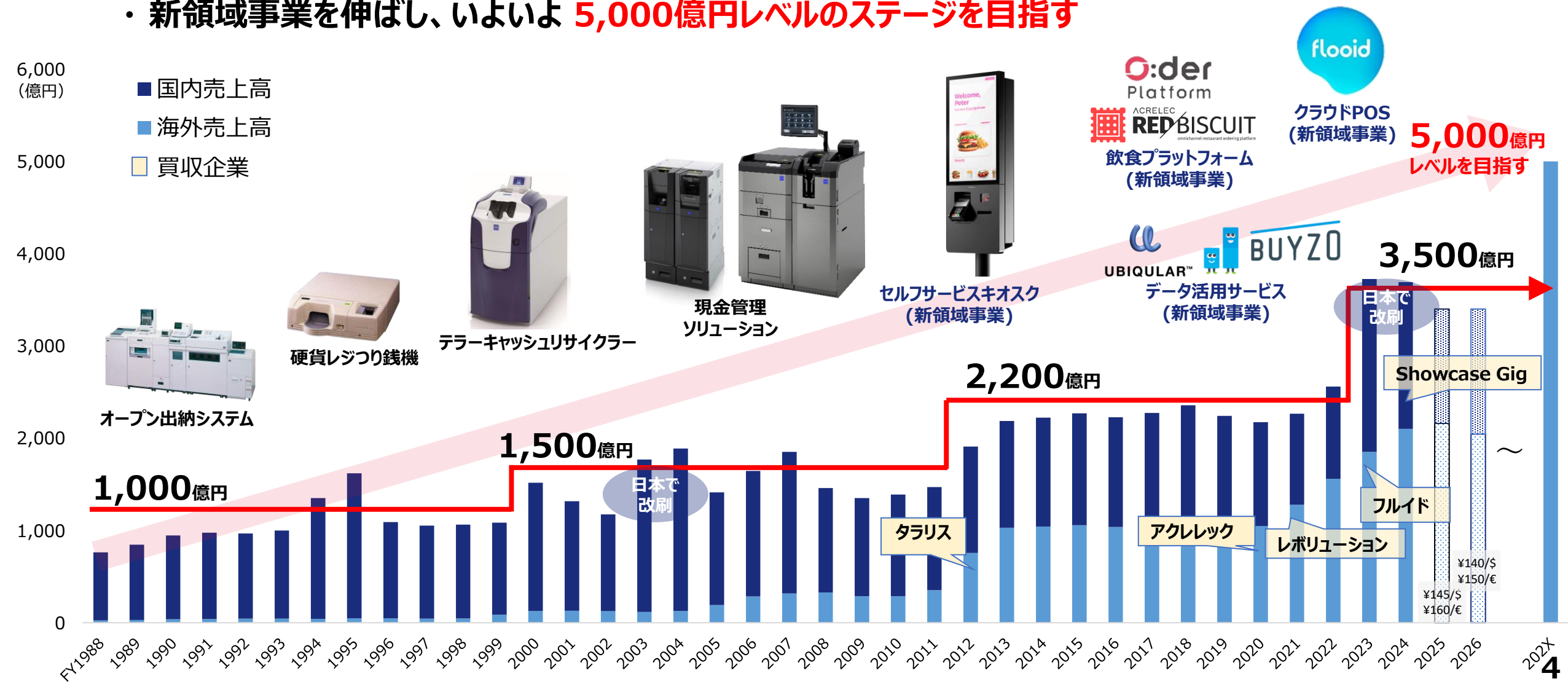
研究開発費



199億円

成長の軌跡

- ・ 金融市場で基盤を築き、流通店舗や飲食店へと進出。そして海外市場を開拓して大きく成長
- ・ 売上高3,500億円を超えるグローバル企業へと着実に成長を続けている（海外比率60%超へ）
- ・ 新領域事業を伸ばし、いよいよ **5,000億円レベルのステージを目指す**



セグメント別売上高

2024年度 売上高
3,690億円

海外市場

2,100億円

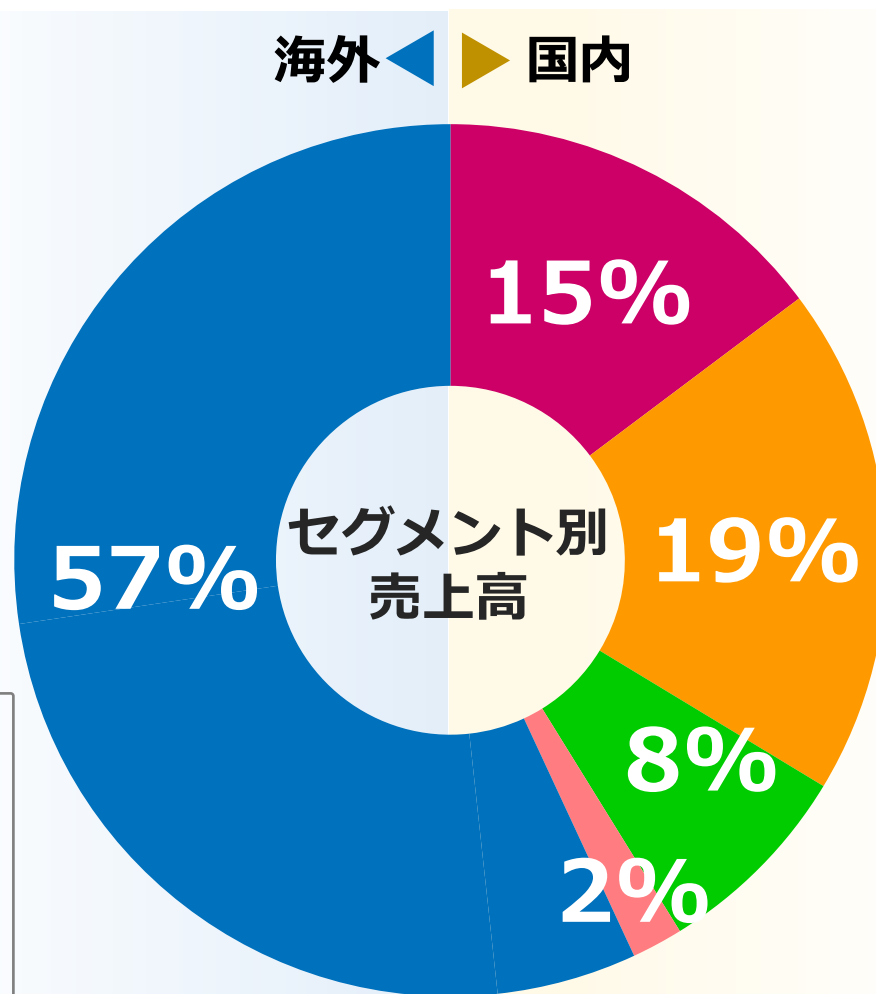
買収企業

flooid
a GLORY company

acrelec
a GLORY company

Revolution
Retail Systems

※2024年4月にGGSグループと経営統合



金融市場

544億円

流通・交通市場

697億円

買収企業

SHOWCASE GIG
a GLORY company

遊技市場

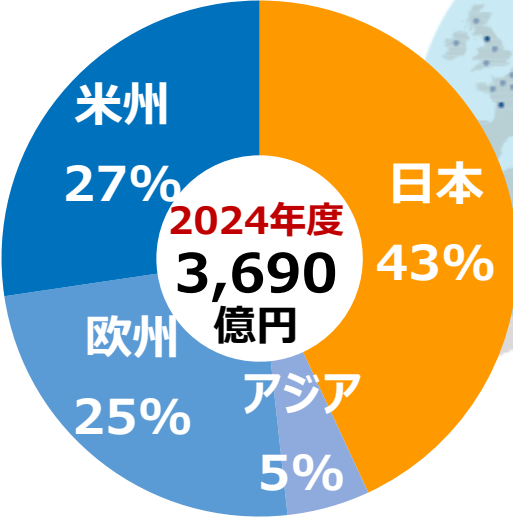
277億円

その他

70億円

地域別売上高とグローバル販売サポート体制

地域別
売上高割合



欧州

売上高 **900** 億円
会社数 **55** 社

日本

売上高 **1,589** 億円
会社数 **14** 社

米州

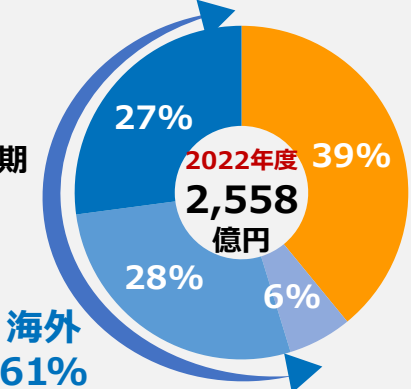
売上高 **1,008** 億円
会社数 **10** 社

アジア (日本を除く)

売上高 **191** 億円
会社数 **20** 社

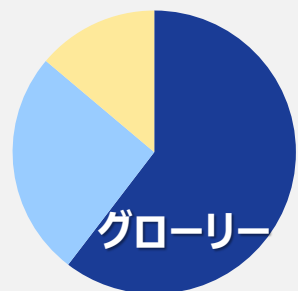
ご参考

改刷特需のない通常期
▼
海外売上高比率
60%超



※2025年3月末時点（当社調べ）

国内 金融機関向け

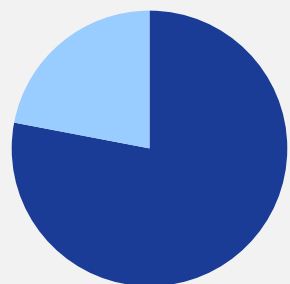


- ▶ 競合企業
- ・ローレルバンクマシン
- ・沖電気
- ▶ 市場稼働台数
30,600台



オープン出納システム

お客さまから預かった現金や小切手を
担当者が窓口後方で素早く計数、集計、整理



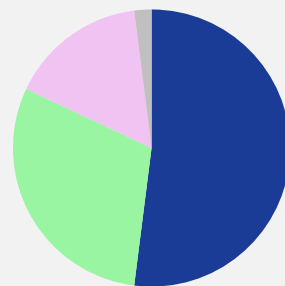
- ▶ 競合企業
- ・ローレルバンクマシン
- ▶ 市場稼働台数
61,000台



窓口用紙幣硬貨 入出金機

担当者がお客さまとお金の受け渡しをする際の
窓口業務をサポート

国内 流通店舗向け

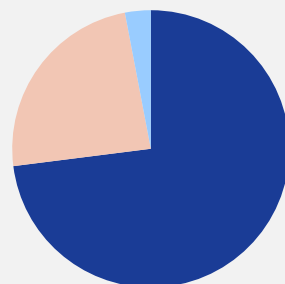


- ▶ 競合企業
- ・富士電機
- ・東芝テック
- ▶ 市場稼働台数
610,000台



レジつり銭機

スーパーマーケットや飲食店、ドラッグストアなどの
レジで代金のつり銭を自動的に払い出す



- ▶ 競合企業
- ・日立チャネルソリューション
- ▶ 市場稼働台数
50,000台

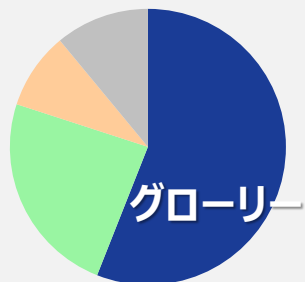
売上金入金機

売上金をバックヤードで一括して
入金し、素早く集計・収納を行う



※2025年3月末時点（当社調べ）

海外 金融機関向け



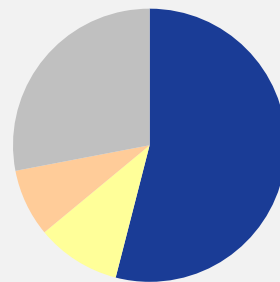
- ▶ 競合企業
 - ・ARCA(米)
 - ・Diebold Nixdorf (米)
- ▶ 市場稼働台数
150,000台

窓口用紙幣 入出金機



金融機関の窓口での紙幣入出金を自動化し、
セキュリティを向上

海外 流通店舗向け

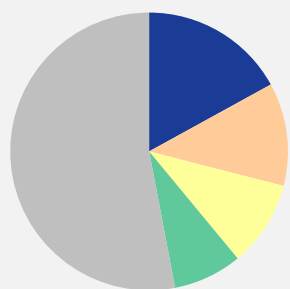


- ▶ 競合企業
 - ・Sesami (米)
- ▶ 市場稼働台数
74,300台

紙幣硬貨入出金機 (バックオフィス向けリサイクラー)



売上金をバックヤードで一括入金し、
素早く集計、収納。**現金に手触れないカセット運用**
※バックオフィスの現金管理は現状は「入金機」が主流

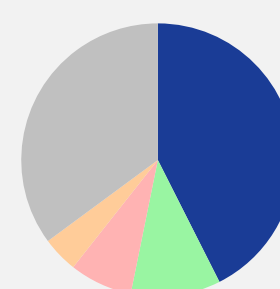


- ▶ 競合企業
 - ・Diebold Nixdorf (米)
 - ・Elo (米)
- ▶ 市場稼働台数
327,000台

セルフサービスキオスク



QSR（クイックサービスレストラン）
などに設置される、注文から決済まで
をセルフで行う端末。非現金決済に
対応



- ▶ 競合企業
 - ・Strongpoint (ノルウェー)
 - ・Azkoyen (スペイン)
- ▶ 市場稼働台数
171,000台

紙幣硬貨入出金機 (フロント向けレジつり銭機)



スーパーマーケットや飲食店などの
レジで代金のつり銭を自動的に払い出す。セルフレジとして使用

02 成長戦略



2026中期経営計画 (2024年5月公表)

2028長期ビジョン

企業理念

私たちは「求める心とみんなの力」を結集し、
セキュア（安心・確実）な社会の発展に貢献します

通貨処理機の
パイオニア

2020

種まき

長期ビジョンの
実現に向けた
仕込み

現金管理の厳正化と
業務効率化に貢献

2023

育成

コア事業と新領域事業の
クロス成長

2026

刈取り

目指す姿

GLORY
TRANSFORMATION
2026

売上高 5,000 億円企業へ

長期ビジョン
目指す姿

人と社会の
「新たな信頼」を創造する
リーディングカンパニーへ

世界最高の製品群と

ソフトウェアプラットフォーム*を融合し店舗DXをサポート

*ソフトウェアプラットフォームを以下、「プラットフォーム」と記載

実績

将来

2026中期経営計画

重点指標を売上高から「利益」へ変更し、稼ぐ力を回復する

リスクの顕在化により
稼ぐ力の低下が露呈

2022年度(実績)

のれん償却前
営業利益 72 億円
のれん償却前
営業利益率 3 %

2026年度(目標)

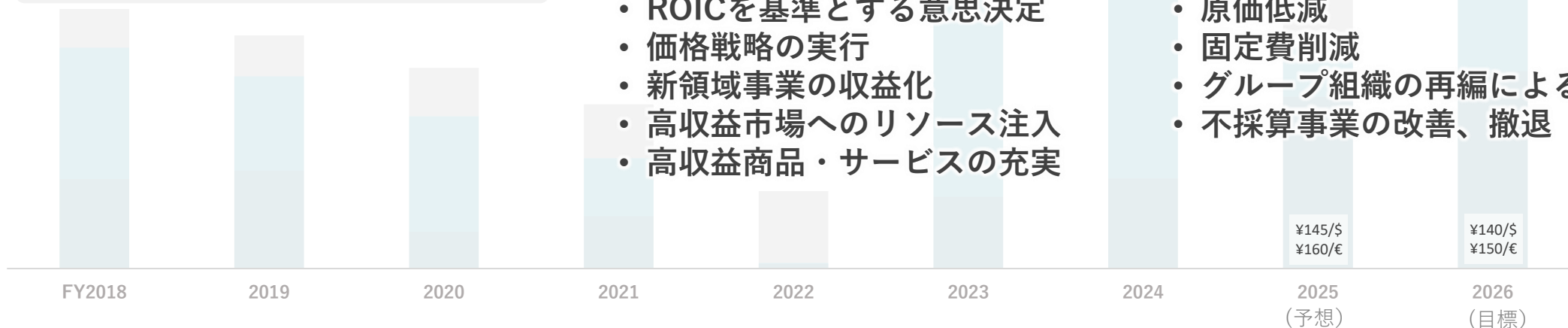
のれん償却前
営業利益 380 億円
のれん償却前
営業利益率 11 %

稼ぐ力の回復

- ・ ROICを基準とする意思決定
- ・ 価格戦略の実行
- ・ 新領域事業の収益化
- ・ 高収益市場へのリソース注入
- ・ 高収益商品・サービスの充実

- ・ 原価低減
- ・ 固定費削減
- ・ グループ組織の再編による効率化
- ・ 不採算事業の改善、撤退

etc.

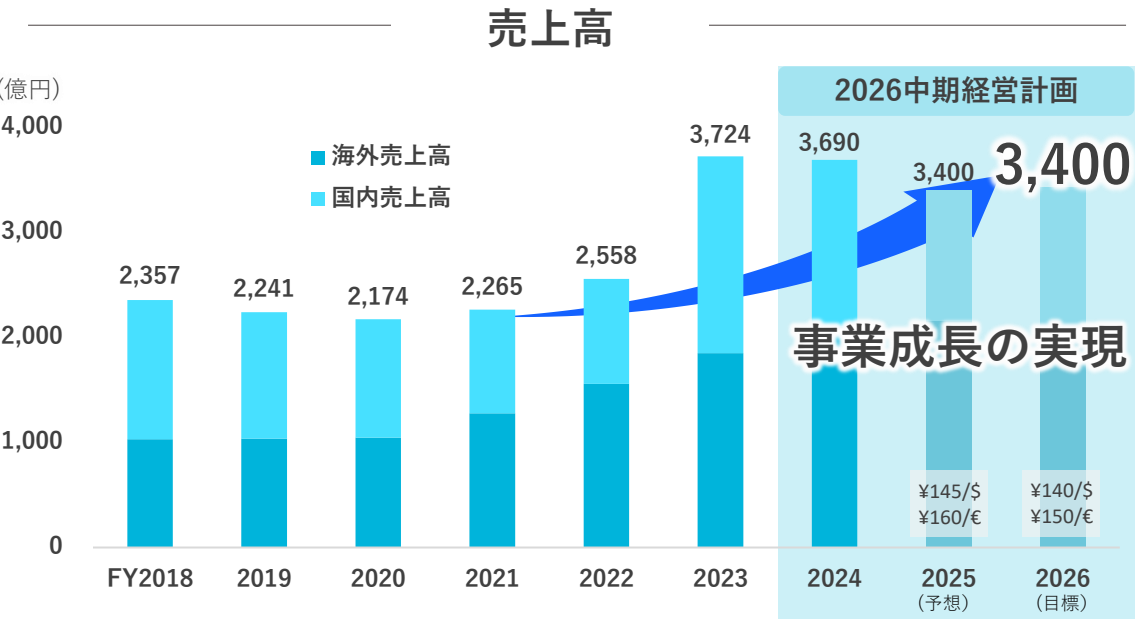
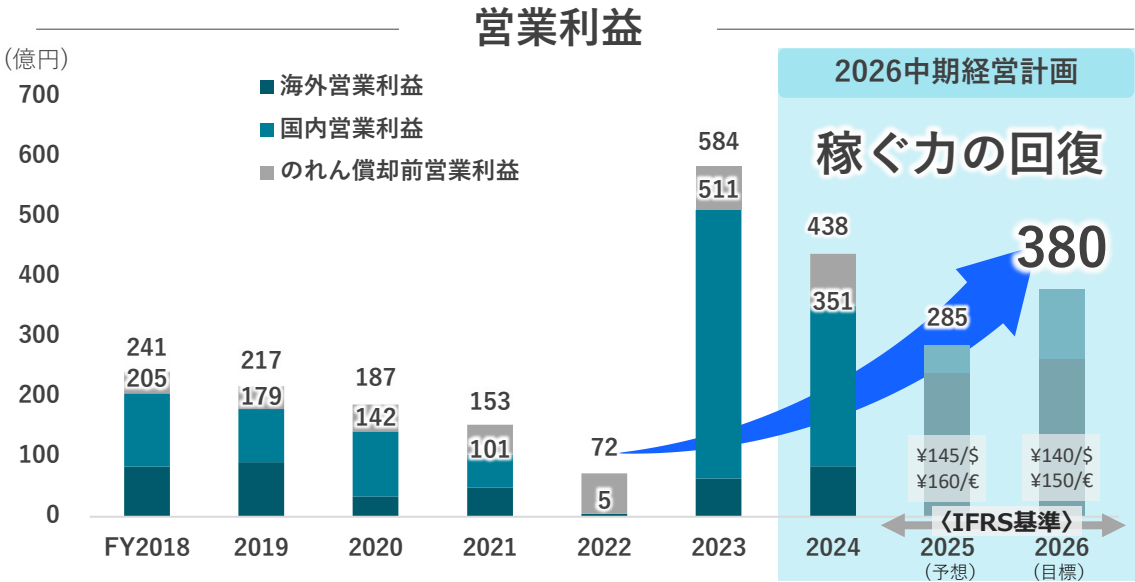


2026中期経営計画

2026年度 財務目標

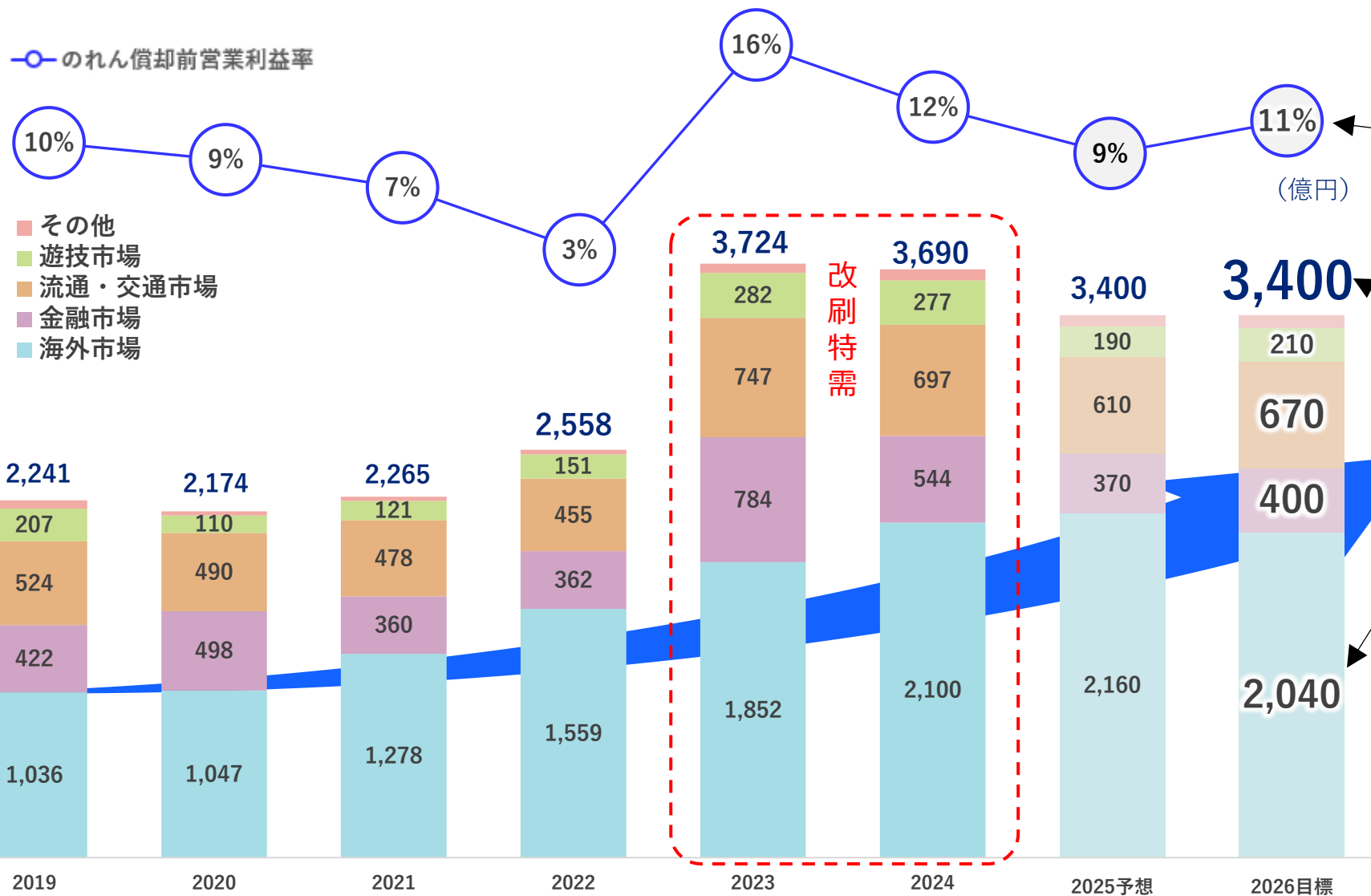
効 率 性		のれん償却前	のれん償却後
	ROE	10%以上	6%以上
	ROIC	8%以上	5%以上
	ROA	5%以上	3%以上
売 上 高	営業利益	380億円以上	300億円以上
	売上高	3,400億円以上	
	内 新領域事業 売上高	600億円以上	

想定為替レート 140円/ドル、150円/ユーロ



2026中期経営計画

営業利益率 と 売上高

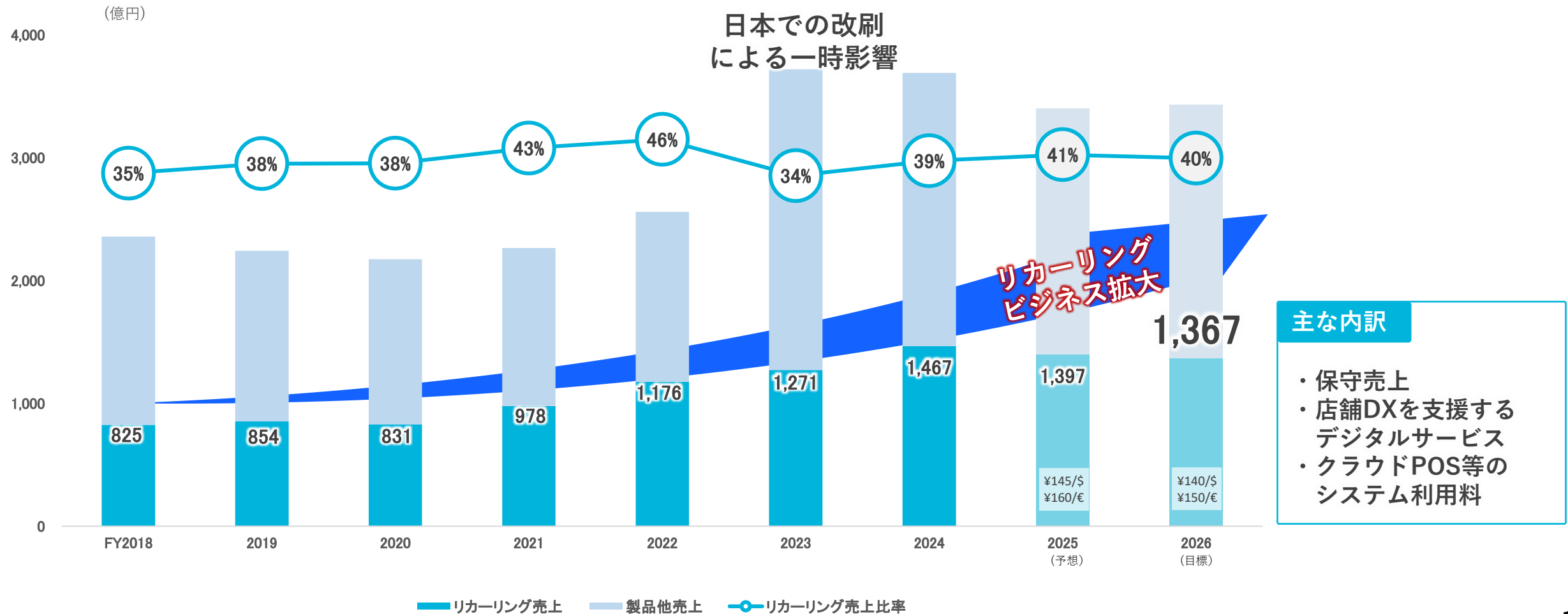


新中計のポイント 変革

- ① 利益重視に舵を切り、
営業利益率 11%以上
(従業員賞与、株主還元、法人税で社会貢献)
- ② 改刷特需がなくても
3,500億円レベルの企業に
成長
- ③ 市場の大きい海外事業を
さらに伸ばし、**2,000億円
以上**へ
- ④ キャッシュレスの浸透を踏まえ
通貨処理機以外の**新領域
事業を600億円以上**に

2026中期経営計画 リカーリングビジネス

保守を中心としたコア事業のリカーリングビジネスに加え、プラットフォーム関連事業などの新領域事業におけるリカーリングビジネスを充実させ、経営基盤の強化を図る



PBR1.0倍以上を早期に実現する

ROE・ROIC・ROAの改善

事業の成長加速

- ・ 新たな収益源の獲得
- ・ コア事業の収益拡大

負債・資本構成の最適化

- ・ 資産効率の向上
- ・ 適切な自己資本比率

利益率向上及び キャッシュ創出力強化

- ・ DX・AIを活用した生産性向上
- ・ 安定したキャッシュ創出

+

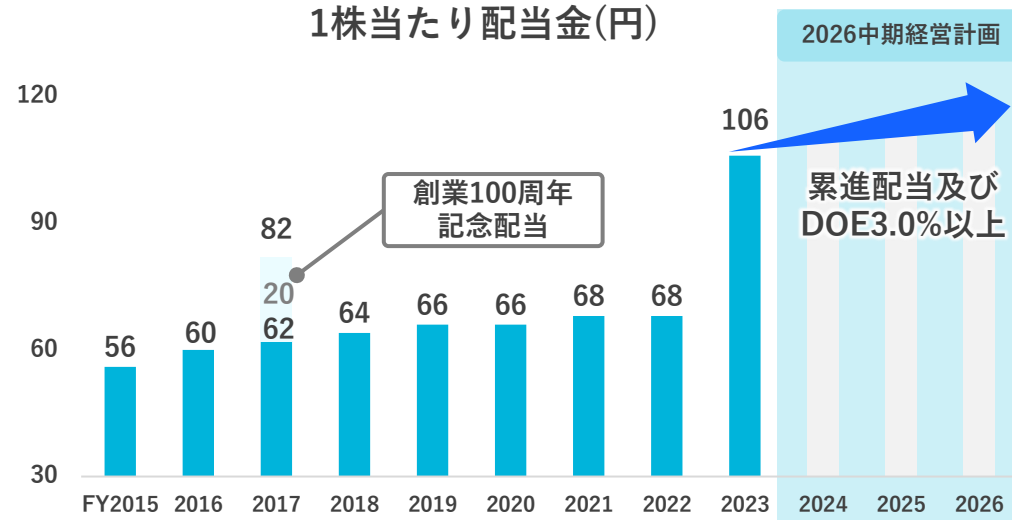
バランスを考慮した成長投資と株主還元の実施

- ・ 成長投資の継続的な実施
- ・ 累進配当及び株主資本配当率(DOE)3.0%以上
- ・ 機動的な株主還元施策
- ・ **総還元性向100%以上(2025年度、2026年度)※**

+

- ・ 非財務目標に対する取組みと開示の充実
- ・ 投資家との継続的な対話による事業戦略の浸透

1株当たり配当金(円)



※2026年3月期及び2027年3月期について、「総還元性向100以上」を目標として追加

2026中期経営計画

事業戦略上の注力市場を設定

注力3市場



+



会計セグメント			リテール	金融	飲食
セグメント	主な取引先	2026年度 売上高目標	1,600億円	1,100億円	410億円
海外市場	海外の金融機関 小売店、飲食店など	2,040億円	○ 1,000億円	○ 700億円	○ 340億円
金融市場	国内の金融機関など	400億円	—	○ 400億円	—
流通・交通 市場	国内のスーパー、コンビニ、 飲食店、病院、鉄道など	670億円	○ 600億円	—	○ 70億円
遊技市場	国内の遊技場 (パチンコホールなど)	210億円	—	—	—
その他	上記報告セグメントに 属さない販売、及び保守先	80億円	—	—	—

2026中期経営計画 海外事業戦略

海外

事業目標

2026年度

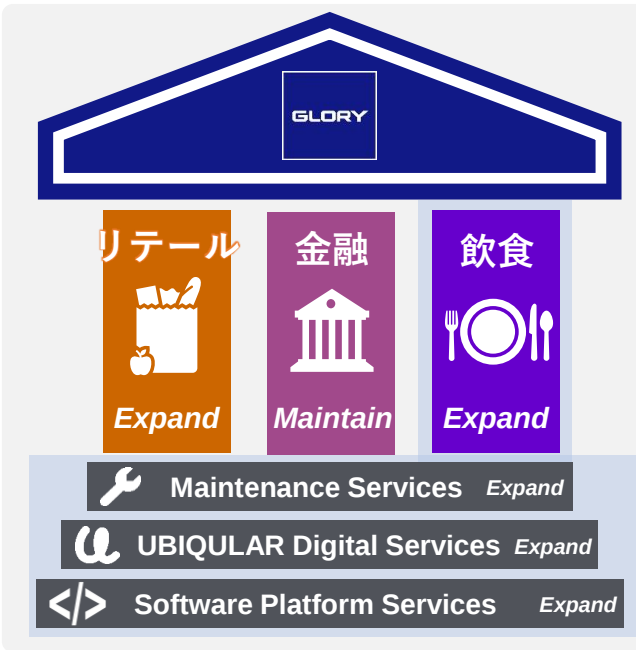
売上高

2,040 億円

海外は2,000億円規模以上へ成長

基本方針

- 1. 収益構造の**変革** リカーリング売上の拡大（月次定額など繰返し収入）
- 2. 事業構造の**変革** リテール市場、金融市場に加え「飲食市場」を第3の柱へ
- 3. ソリューションの**変革** 顧客の売上向上に貢献するソリューション



Point 1

リカーリング売上拡大

目標：リカーリング売上高比率50%超

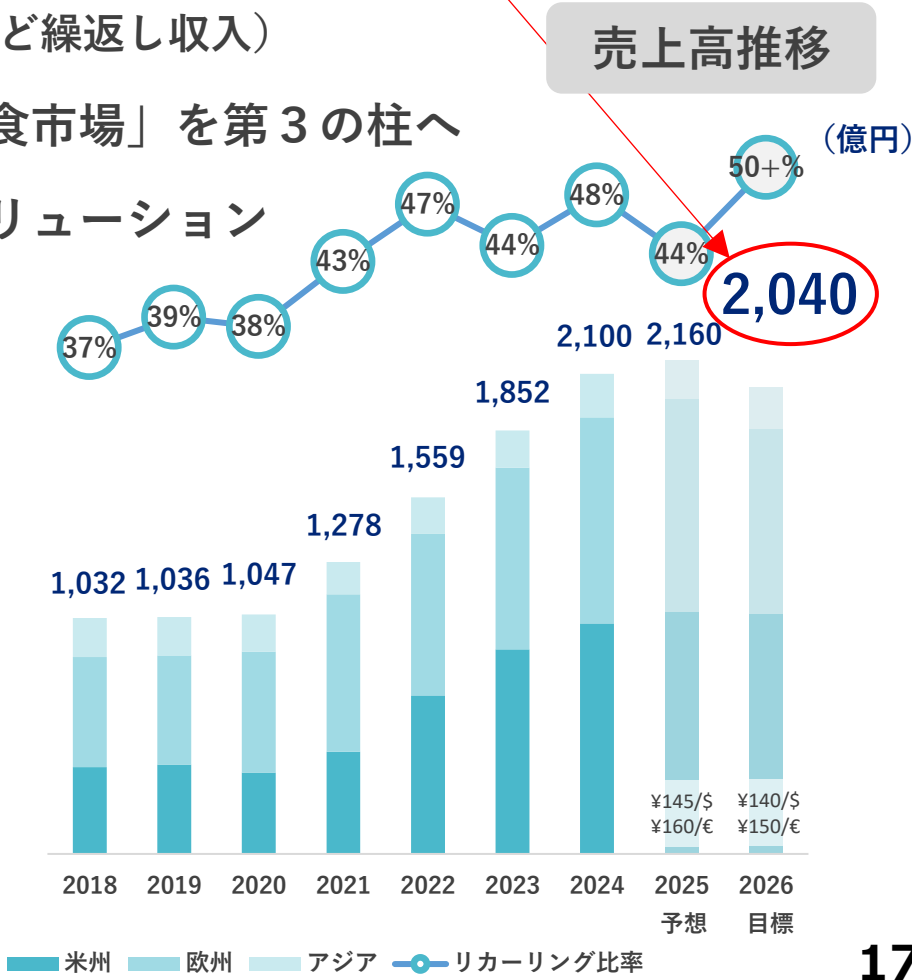
Point 2

飲食を第三の柱に

Point 3

DXによる顧客事業の支援

目標：ソフトウェア売上高比率10%超
(予想)



2026中期経営計画 国内事業戦略

国内

事業目標

2026年度

売上高

1,360 億円

特需を除き

過去最高売上へ成長

基本方針

1. コア事業の利益額の最大化 (ROIC経営の浸透)
2. リテール及び飲食の成長
3. 顧客基盤をフル活用したDXビジネスの拡大

Point 1

「セルフ化」をキーワードにした
新たなソリューション創出

Point 2

戦略的ターゲット層への販売拡大

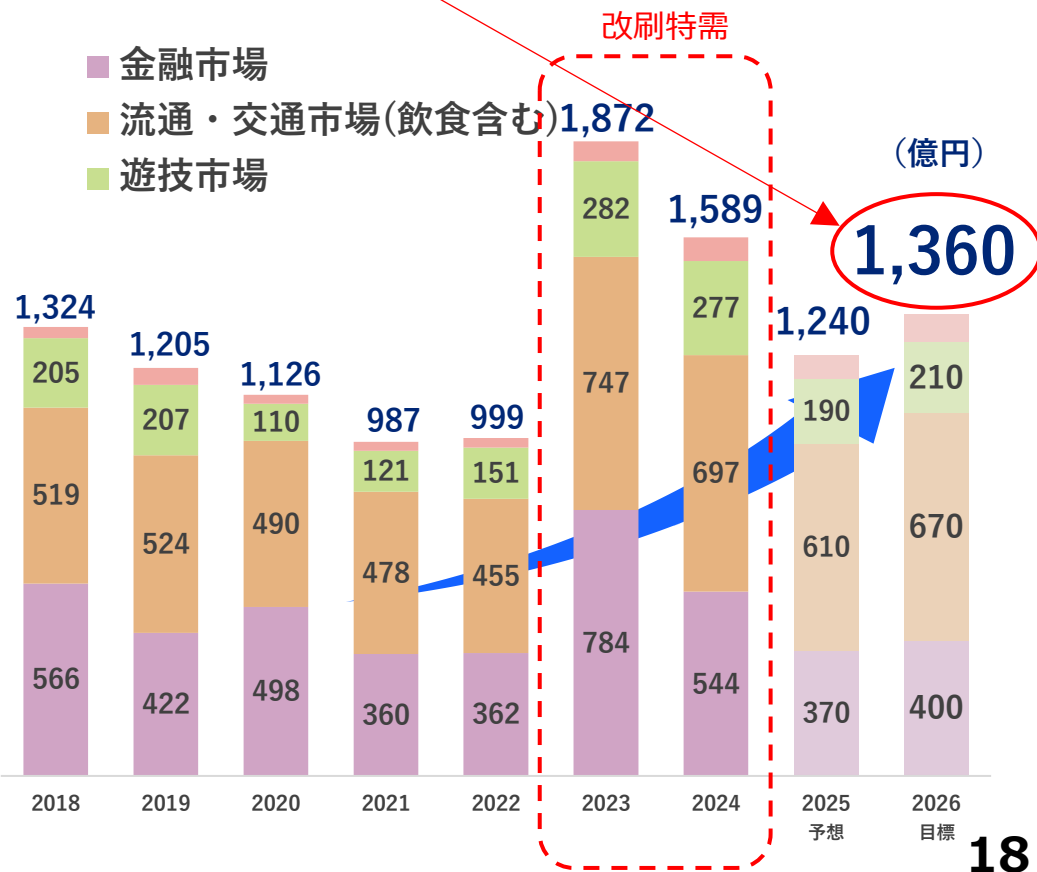
Point 3

プラットフォームを含めた
トータル提案の実施

Point 4

海外飲食ソリューションの日本展開

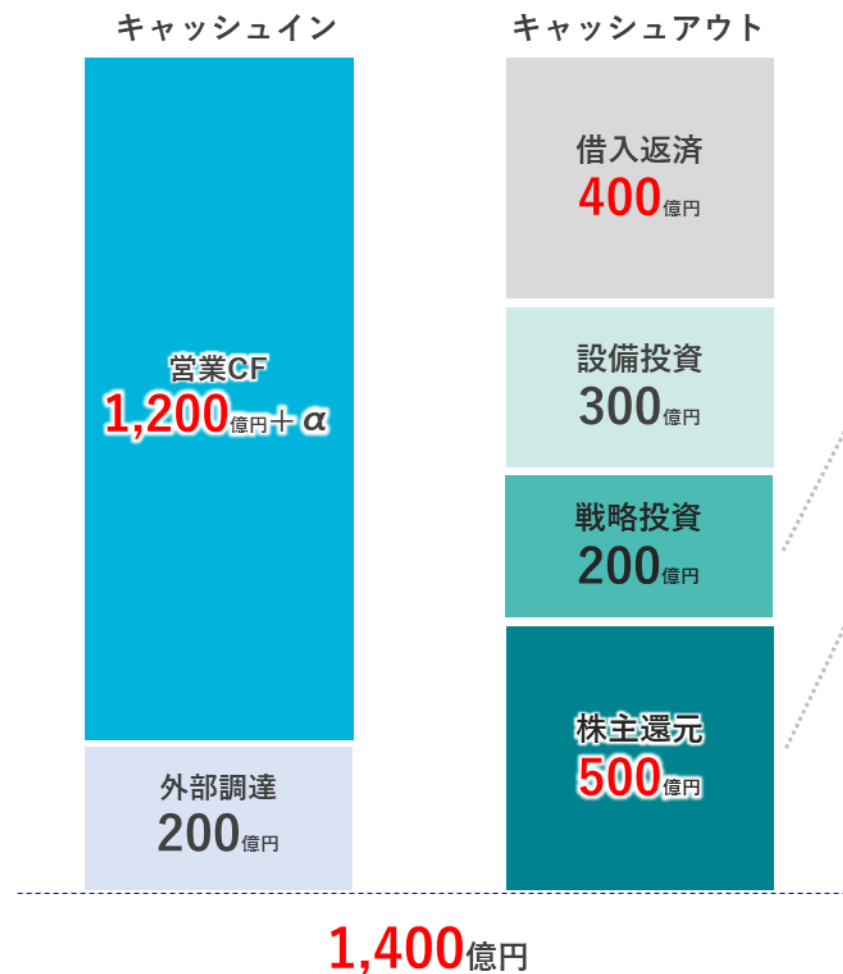
売上高推移



2026中期経営計画 資本・財務戦略／投資計画

財務健全性を確保したうえで、機動的な成長投資と安定的な株主還元を実現する

キャッシュアロケーション



1. 健全性確保

自己資本比率 50%程度

D/Eレシオ 0.6以下

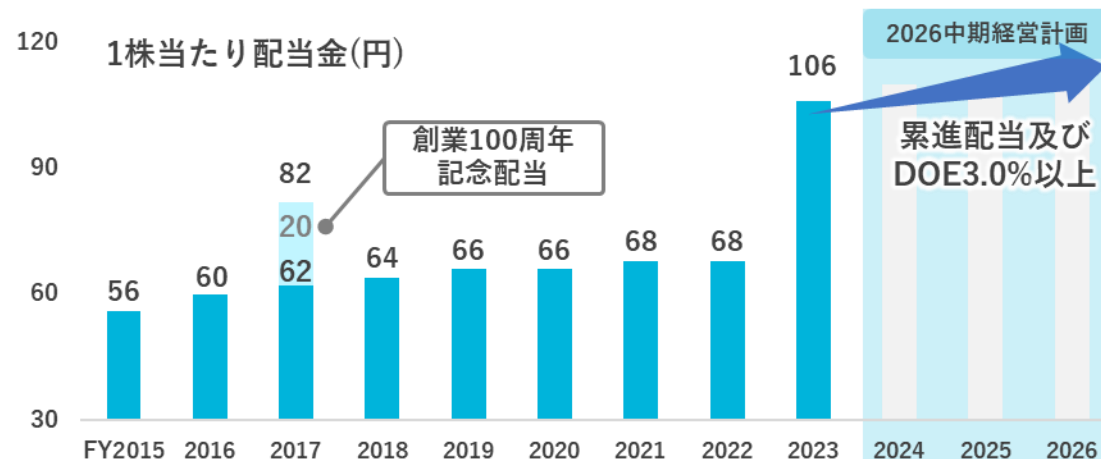
2. 戦略投資

新領域事業への機動的な戦略投資（M & A等）と
DX基盤整備やコア事業の生産性向上に向けた投資を実施する

3. 株主還元

- 目 標
- 1. 2024年3月期の配当金額（1株につき年間106円）を基準とした累進配当
 - 2. 株主資本配当率（DOE）3%以上
 - 3. 総還元性向100%以上（2025年度、2026年度）*

自己株式の取得：経営状況を踏まえ、機動的に実施する



*2026年3月期及び2027年3月期について、「総還元性向100%以上」を目標として追加

03

企業価値向上への取り組み



企業価値向上への取り組み

1. 「2026中期経営計画」 初年度進捗
2. 海外事業の成長戦略
3. 利益配分に関する基本方針の変更
4. キャッシュアロケーションの見直し
5. 中期目標達成のためのアクション

2026中期経営計画

・営業利益	・売上高
・当期利益	・ROE
・ROIC（事業ポートフォリオの最適化）	
・ROA	・PBRの推移

6. 政策保有株式の縮減状況
7. 株式を活用した人的資本経営の推進
8. 株主・投資家との対話の実施状況
9. IFRS移行に関するお知らせ

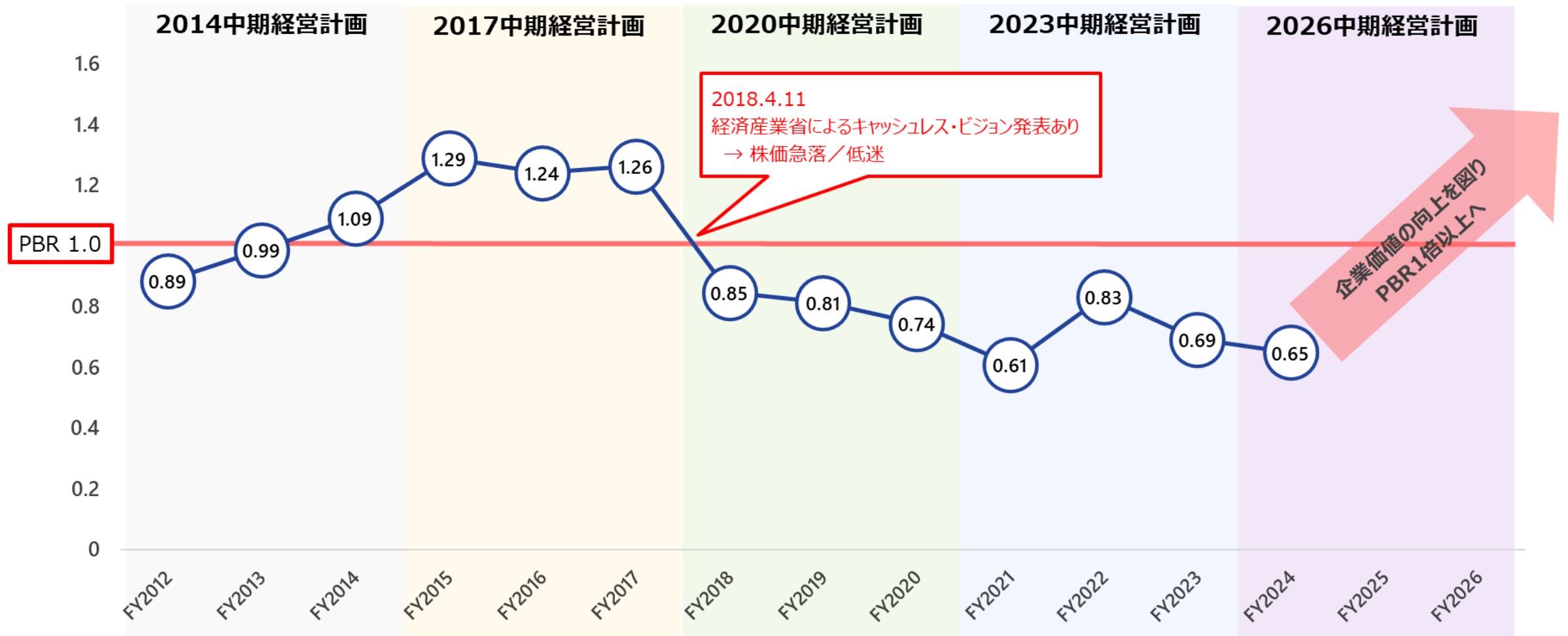


課題

米国の関税に関する影響

企業価値向上への取り組み

当社PBRの推移



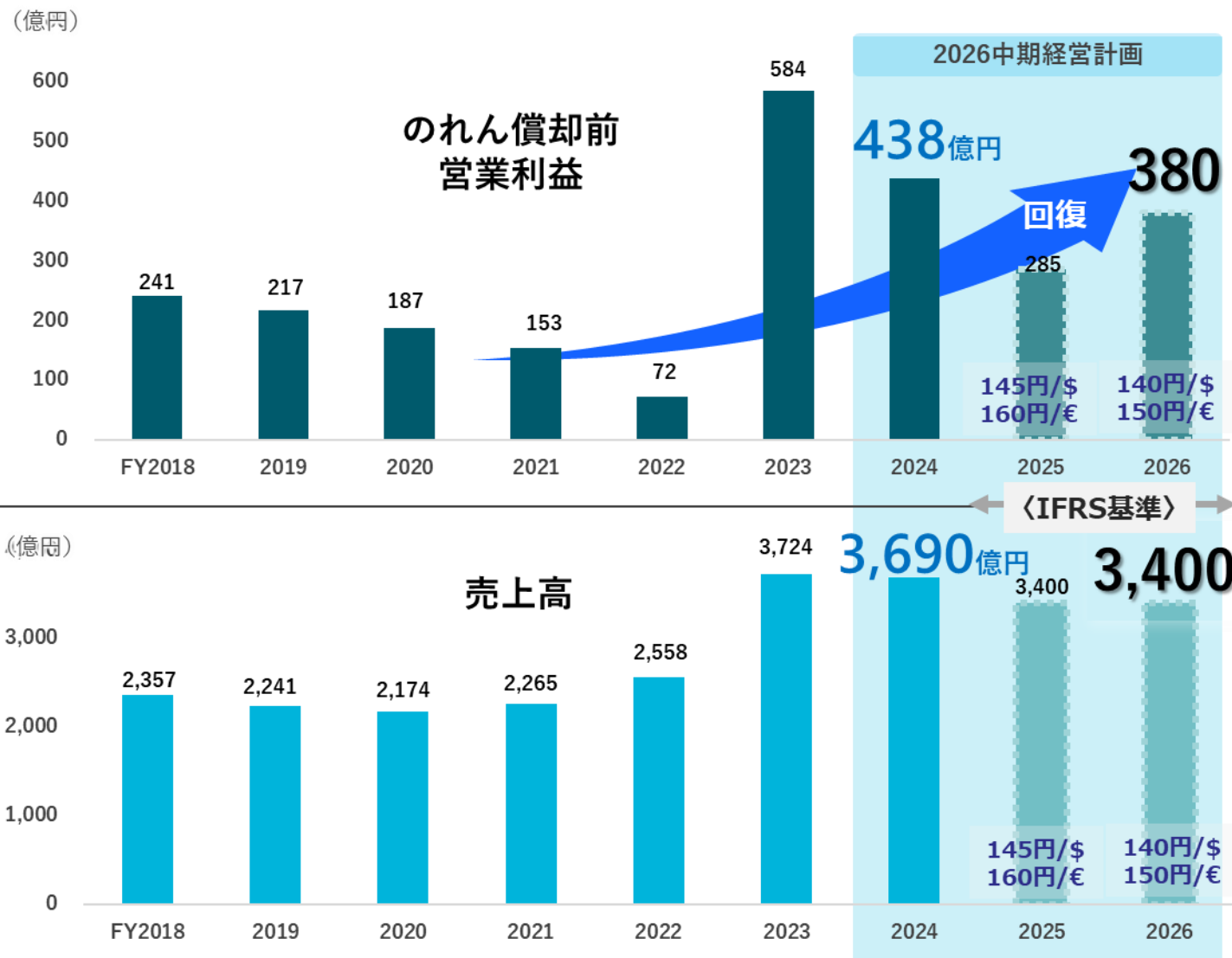
1. 「2026中期経営計画」 初年度進捗

当社試算に基づく参考情報

・中計初年度は、営業利益、売上高ともに計画を大きく上回った

2024年度 計画と実績

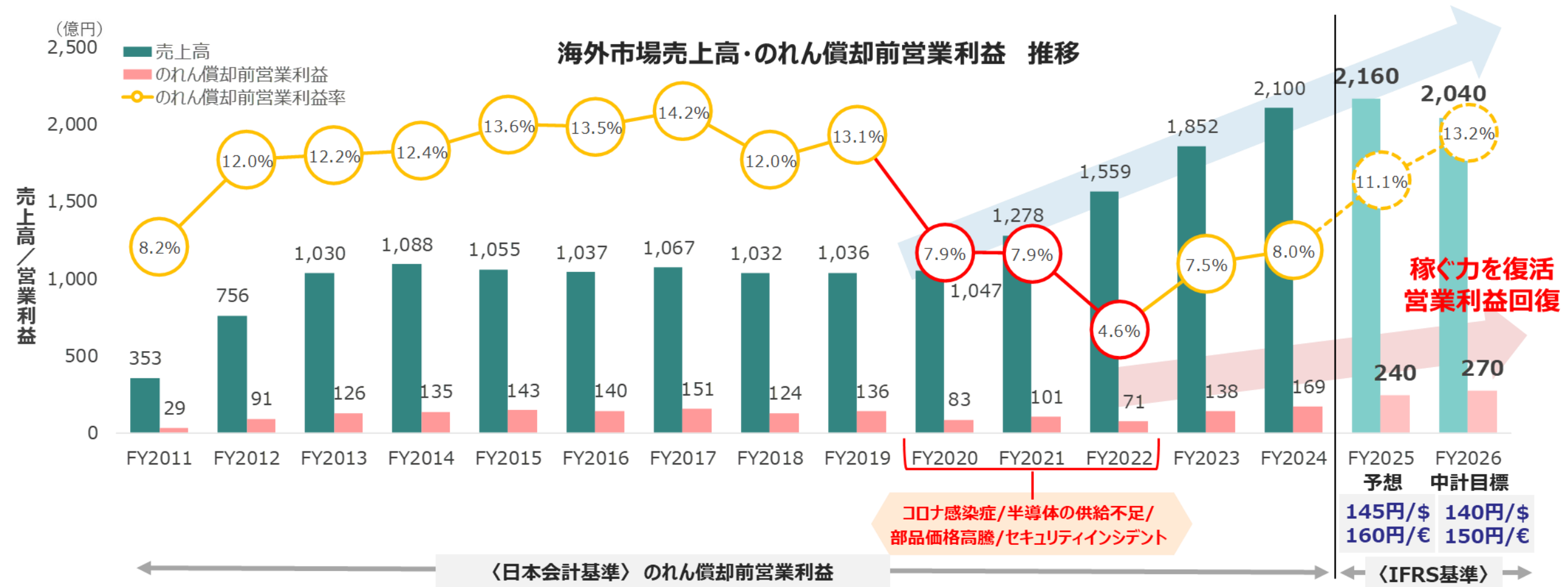
効率性		計 画	実 績
	ROE 自己資本利益率	のれん償却前 8.3%以上	のれん償却前 10.7%
	ROIC 投下資本利益率	6.6%以上	9.9%
	ROA 総資産利益率	4.2%以上	5.4%
P / L	営業利益	306億円	438億円
	売上高	3,300億円	3,690億円
	内 新領域事業 売上高	448億円	510億円



2. 海外事業の中期進捗

当社試算に基づく参考情報

- ・中期経営計画の成長エンジンである海外事業（特にリテール）が伸長
- ・海外営業利益率も順調に回復
- ・先行投資してきたAcrelecとFlooidの新領域事業が成長、利益も拡大



2. 新領域の買収企業も成長

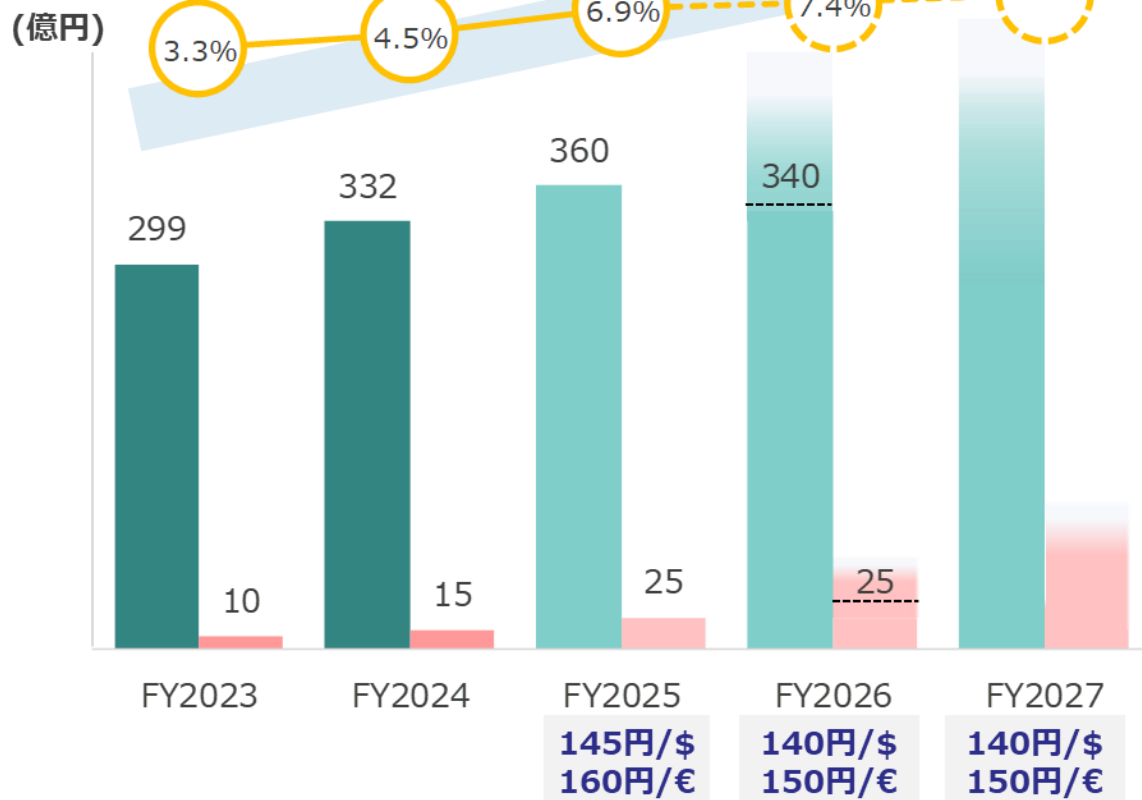
当社試算に基づく参考情報



海外：飲食市場

売上高
のれん償却前営業利益
のれん償却前営業利益率

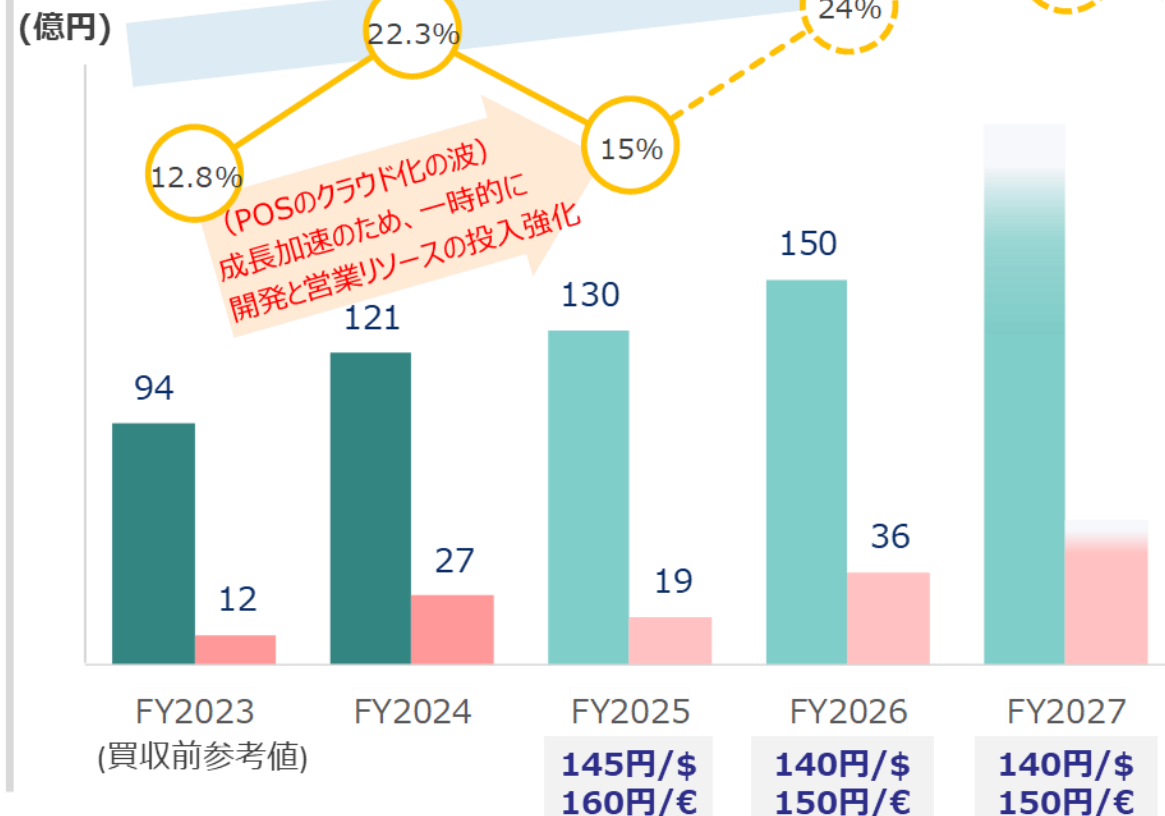
収益体質の改善



海外：リテール市場

売上高
のれん償却前営業利益
のれん償却前営業利益率

収益性を維持しつつ事業成長



3. 利益配分に関する基本方針の変更 [株主還元]

当社試算に基づく参考情報

新たに目標 3. を追加

目 標

1. 2024年3月期の配当金額（年間106円/1株）を基準とした累進配当
2. 株主資本配当率（DOE）3%以上
- +
3. 2026中期経営計画の期間中は総還元性向100%以上
（2026年3月期 及び 2027年3月期）

方針変更の理由

中長期の成長エンジンである海外市場において

- ・ リテール向けを中心に事業が拡大し、収益性も改善傾向
- ・ 買収企業の成長に確信
 - 飲食店向けソリューションの創出
 - 流通店舗向けプラットフォームの販売が軌道に乗った

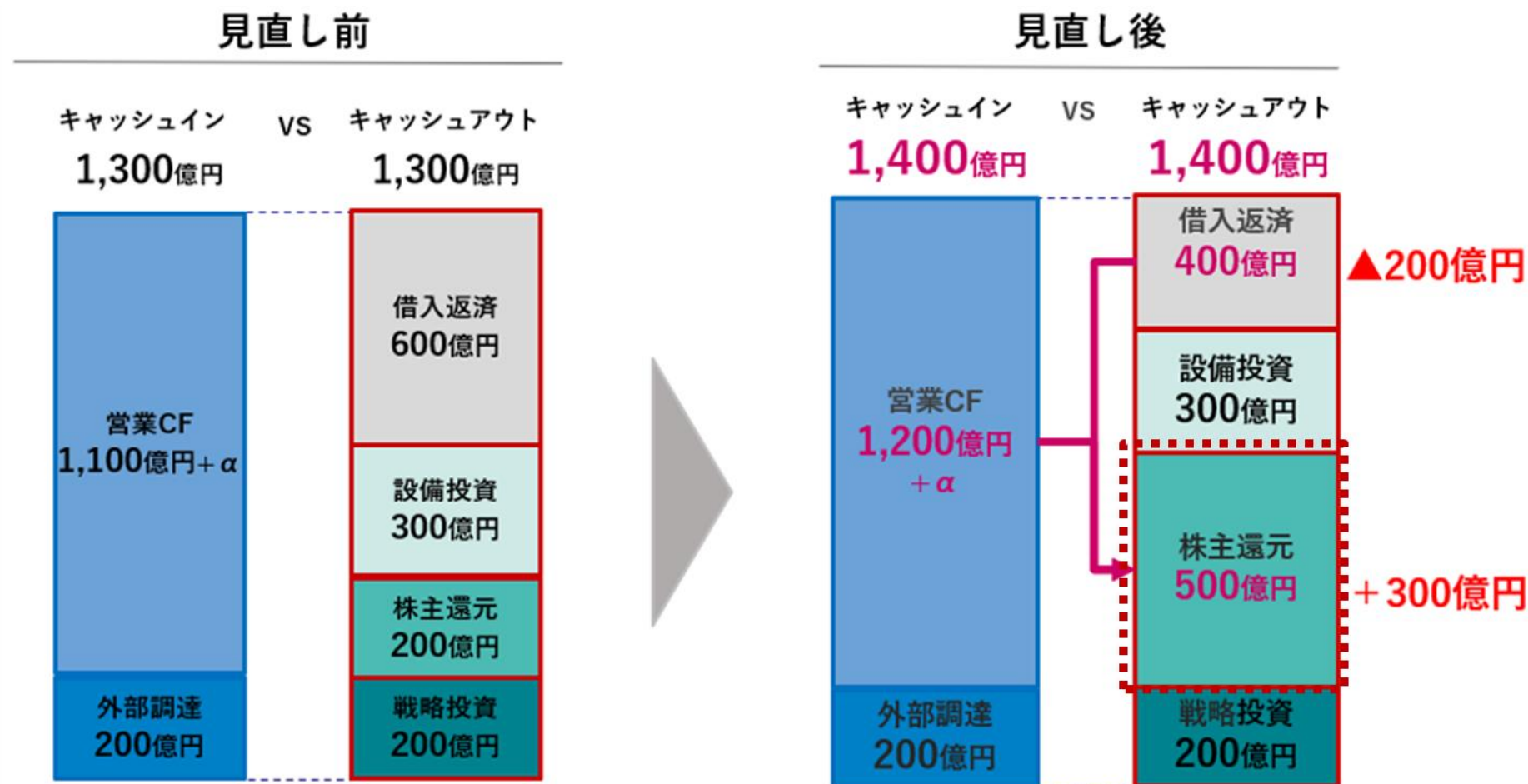


4. キャッシュアロケーションの見直し [株主還元]

当社試算に基づく参考情報

営業キャッシュ・フローの増加見通しに伴い

➡ 中期3年間の株主還元枠を **200億円から500億円へ拡大**



4. キャッシュアロケーションの見直し [株主還元]

当社試算に基づく参考情報

配 当

1株当たり配当金

+

自己株式取得

総還元性向100%以上の実施

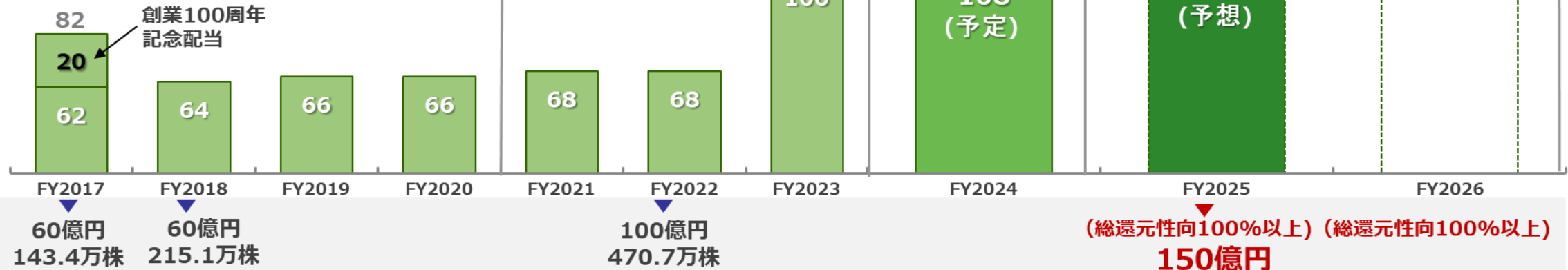
2026年3月期 予 想	中間期末	期 末	年 間
	56円	56円	112円
2025年3月期 予 定	中間期末	期 末	年 間
	54円	54円	108円

取得目的	資本効率の向上
株式取得価額、株数	150億円（上限）, 600万株（上限） （自己株を除く発行済株式数 57,796,560株の10.4%に相当）
取得期間	2025年5月14日～2026年5月13日
消却の考え方	今回取得分は全て消却する方針

年間配当金
自己株式取得の推移

株主還元目標

1株当たり年間配当金（円）



配 当

自己株式
取得

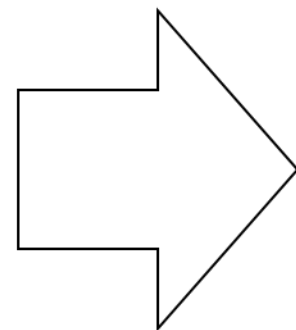
5. 中期目標達成のためのアクション

[2026中計財務目標]

2026年度 財務目標

効 率 性		のれん償却前	のれん償却後
	ROE	10%以上	6%以上
	ROIC	8%以上	5%以上
	ROA	5%以上	3%以上
P / L	営業利益	380億円以上	300億円以上
	売上高	3,400億円以上	
	内 新領域事業 売上高	600億円以上	

想定為替レート 140円/ドル、150円/ユーロ



次ページ以降にて
進捗状況、および
達成ストーリーをご説明

5. 売上高 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報

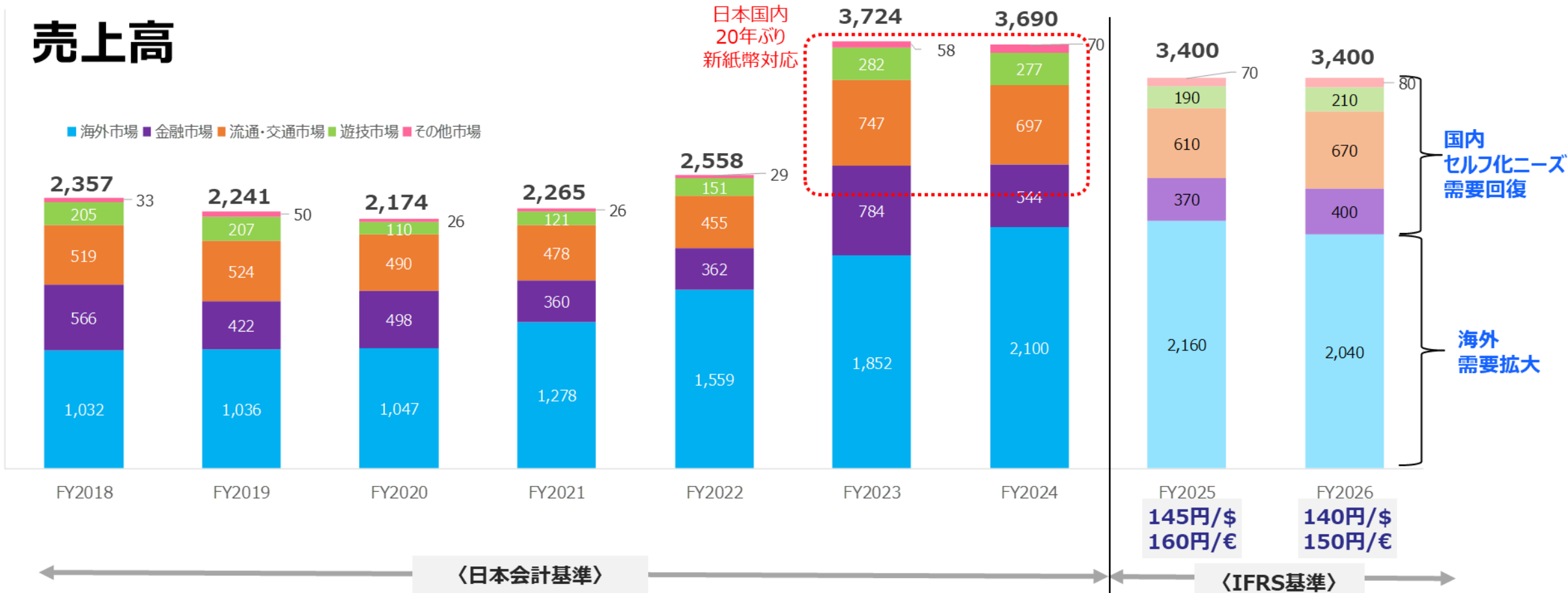
(億円)

売上高

セグメント別売上高

■ 海外市場 ■ 金融市場 ■ 流通・交通市場 ■ 遊技市場 ■ その他市場

日本国内
20年ぶり
新紙幣対応



「2026中期経営計画」初年度アクションと成果

- 国内市場は、新紙幣発行対応へ注力（新紙幣売上高 100億円）
→ 全般的に売上減少も、リテールの券売機が売上増加（前期比 +10億円）
- 海外市場は、飲食、リテール市場の売上拡大（前期比 +219億円）
→ 特に北米での売上高は、1,000億円を突破（前年比 +114 億円）

2025年度-2026年度のアクション

- 流通・交通市場は人手不足を背景としたセルフ化ニーズを捉えた売上の拡大
- 海外市場は注力市場であるリテール市場と飲食市場を拡大
- 通貨処理機に加え、Flooid やAcrelecの新領域事業ソリューションを加速

5. 営業利益 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報

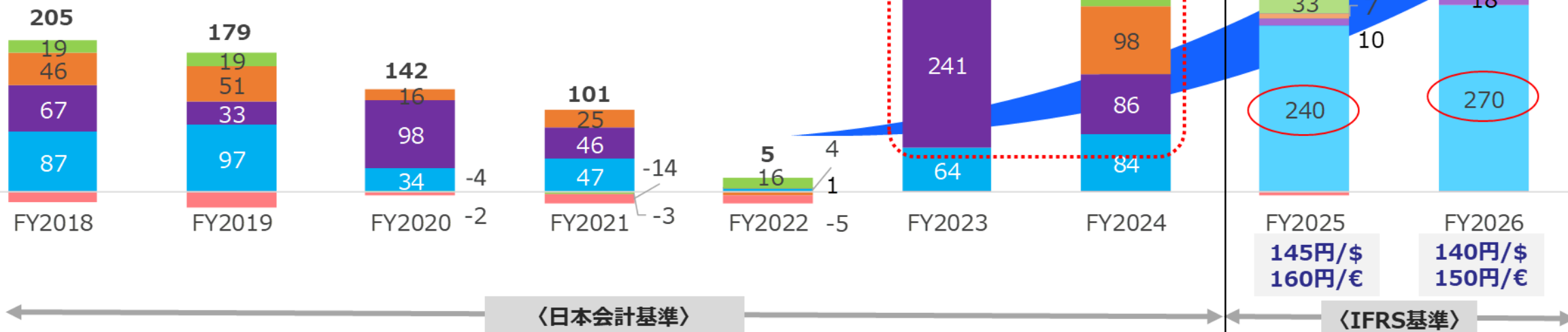
営業利益

(億円)

■ 海外市場
■ 流通・交通市場
■ その他市場
■ 金融市場
■ 遊技市場

日本国内
20年ぶり
新紙幣対応

海外事業拡大に加え、
国内回復にて利益拡大



「2026中期経営計画」初年度アクションと成果

- 国内市場は、売上高が減少するなか、高い営業利益率を維持
→特に遊技市場は営業利益率30%超、金融、流通セグメントも15%前後
- 海外市場は、Acrelec、Flooidの利益が改善（前期比+5億円、+27億円）
→特に、Flooidの営業利益率は20%超

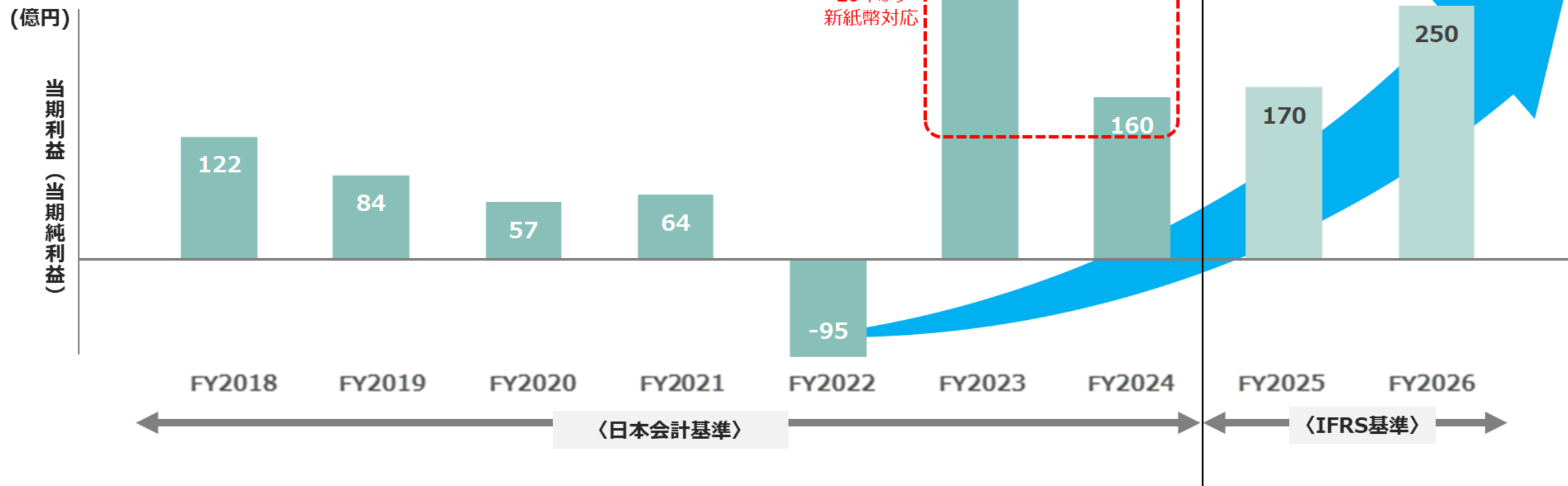
2025年度-2026年度のアクション

- 買収企業とのシナジーによる収益拡大の早期実現
→Revolution、Acrelec、Flooid、Showcase Gigなど
- 成長エンジンと位置付ける米州事業の高収益化を実現
→買収企業との事業統合や保守事業の効率化加速による収益性改善

5. 当期利益 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報

当期利益（当期純利益）



「2026中期経営計画」 初年度アクションと成果

- 国内市場は、売上高が減少するなか、高い営業利益率を維持
→特に遊技市場は営業利益率30%超、金融、流通セグメントも15%前後
- 海外市場は、Acrelec、Flooidの利益が改善（前期比+5億円、+27億円）
→特に、Flooidの営業利益率は20%超

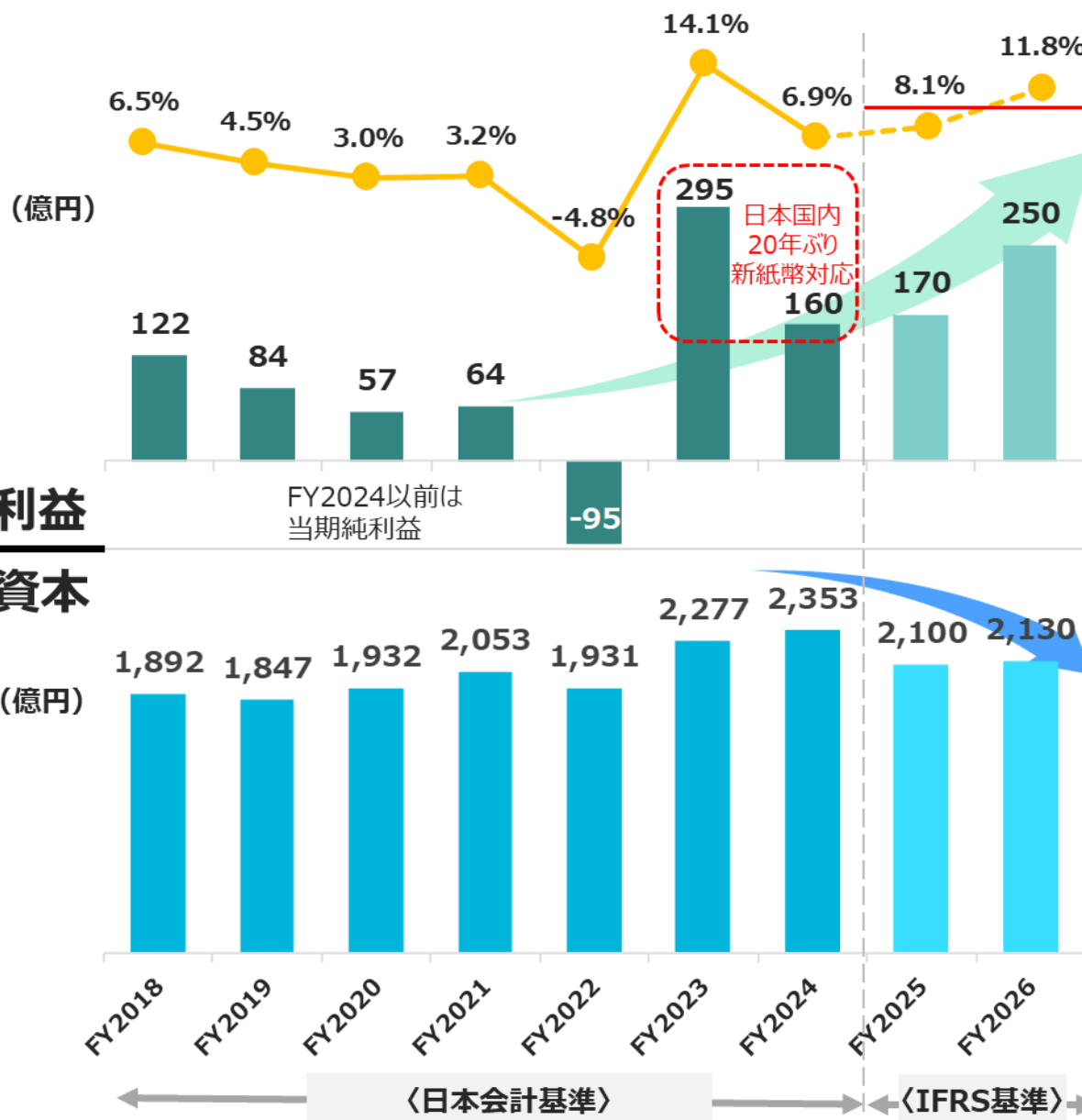
2025年度-2026年度のアクション

- 買収企業とのシナジーによる収益拡大の早期実現
- 成長エンジンと位置付ける米州事業の高収益化を実現
→買収会社との事業統合や保守事業の効率化加速による収益性改善
- グローバルでの為替リスク管理強化による為替影響の極小化

5. ROE 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報

$$ROE = \frac{\text{当期利益}}{\text{自己資本}}$$



ROE目標:10% (のれん償却前)

分子【当期利益】に対するアクション

【実績】

- 国内市場は、売上高が減少するなか、高い営業利益率を維持
- 海外市場は、Acrelec、Flooidの利益が改善
(前期比+5億円、+27億円)

【計画】

- 買収企業とのシナジーによる収益拡大の早期実現
- 成長エンジンと位置付ける米州事業の高収益化を実現

分母【自己資本】に対するアクション

【実績】

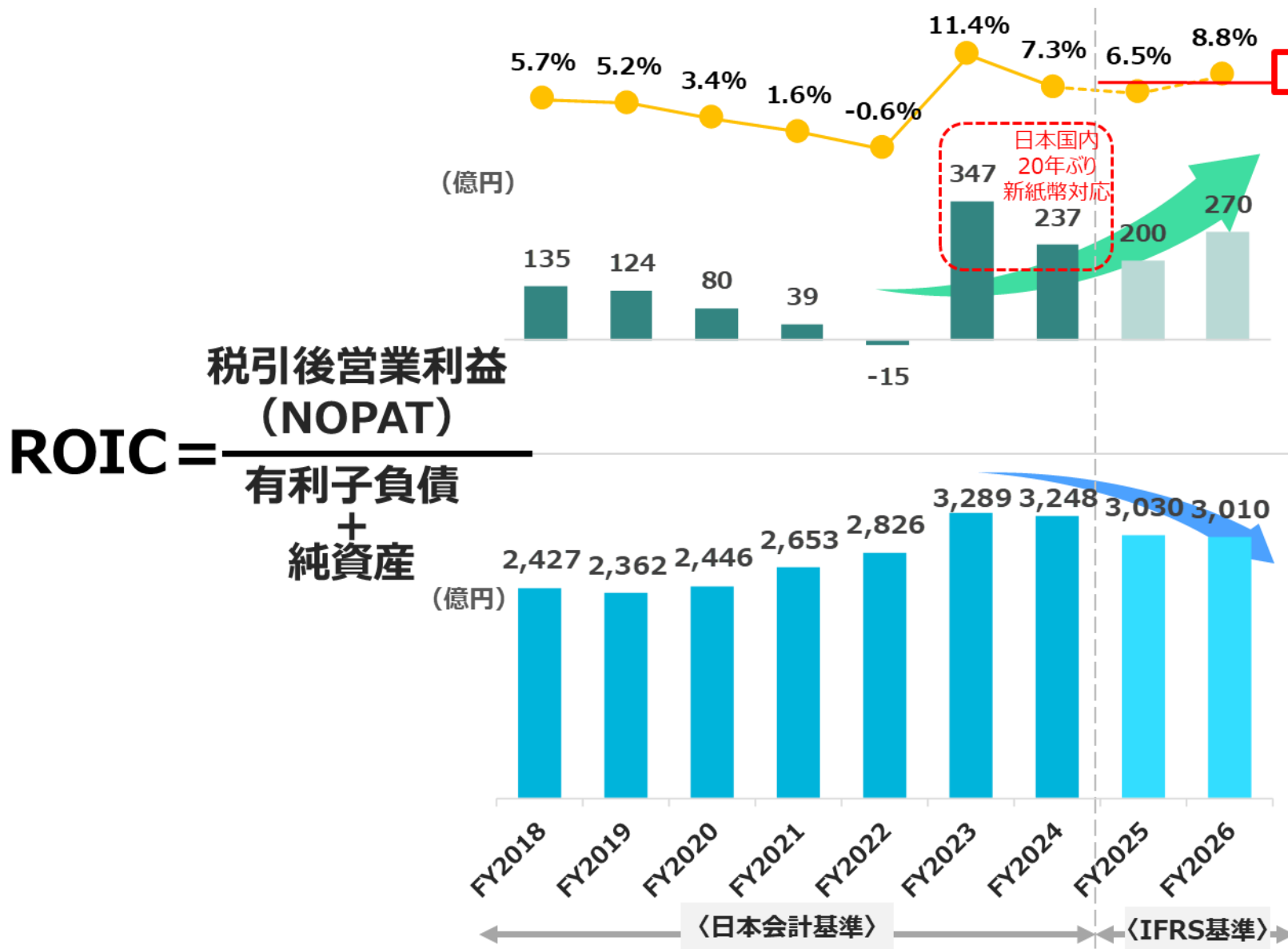
- 自己資本比率、D/Eレシオなどの安全性に配慮しつつ有利子負債を有効活用
(社債発行による資金調達142億円)

【計画】

- 株主還元の強化
(総還元性向100%以上→増配および自社株買と消却)
- 最適資本構成を踏まえた負債水準の検討

5. ROIC 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報



ROIC目標:8% (のれん償却前)

分子【税引後営業利益】に対するアクション

【実績】

- 国内市場は、売上高が減少するなか、高い営業利益率を維持
- 海外市場は、Acrelec、Flooidの利益が改善（前期比+5億円、+27億円）

【計画】

- 買収企業とのシナジーによる収益拡大の早期実現
- 成長エンジンと位置付ける米州事業の高収益化を実現

分母【有利子負債+株主資本】に対するアクション

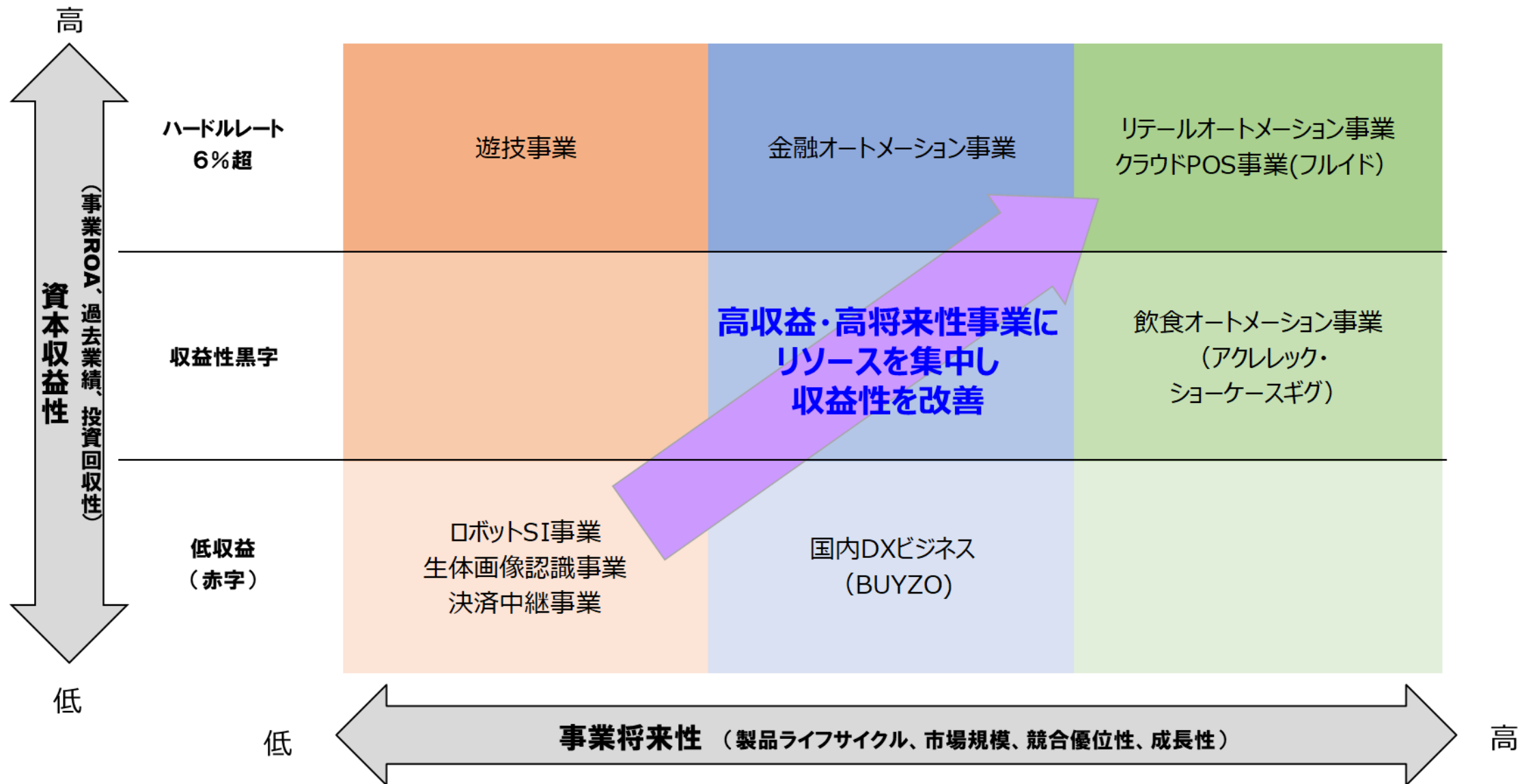
【実績】

- 新紙幣対応で増加した棚卸資産を圧縮(前期比▲150億円)
- 借入金の繰上返済による有利子負債の圧縮(前期比▲120億円)

【計画】

- 事業ポートフォリオ最適化（不採算事業の改善／撤退、高収益事業への投資）
- 棚卸資産や売掛債権等、運転資金の圧縮による効率性の改善
- 株主還元の強化（総還元性向100%以上→増配および自社株買と消却）

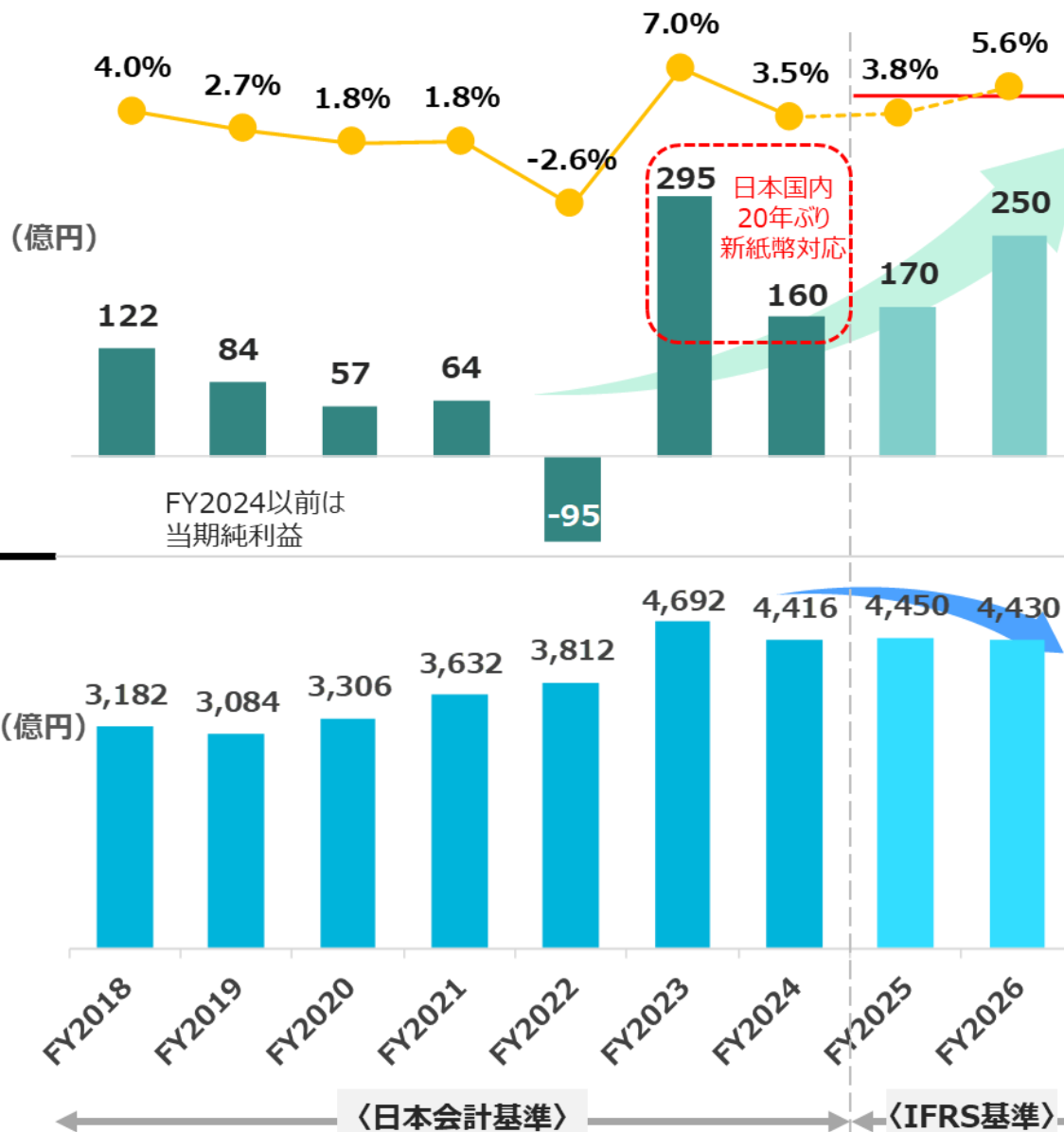
5. ROIC 達成のためのアクション [事業ポートフォリオの最適化]



5. ROA 達成のためのアクション

当社試算に基づく参考情報

$$ROA = \frac{\text{当期利益}}{\text{総資産}}$$



分子【当期利益】に対するアクション

【実績】

- 国内市場は、売上高が減少するなか、高い営業利益率を維持
- 海外市場は、Acrelec、Flooidの利益が改善 (前期比+5億円、+27億円)

【計画】

- 買収企業とのシナジーによる収益拡大の早期実現
- 成長エンジンと位置付ける米州事業の高収益化を実現

分母【総資産】に対するアクション

【実績】

- 新紙幣対応で増加した棚卸資産を圧縮 (前年比▲150億円)
- 借入金の上返済による有利子負債の圧縮 (前年比▲120億円)

【計画】

- 運転資金の圧縮と株主還元強化による総資産の適正化
- 棚卸資産や売掛債権等、運転資金の圧縮によるB/Sのスリム化
- 株主還元の強化 (総還元性向100%以上→増配および自社株買と消却)

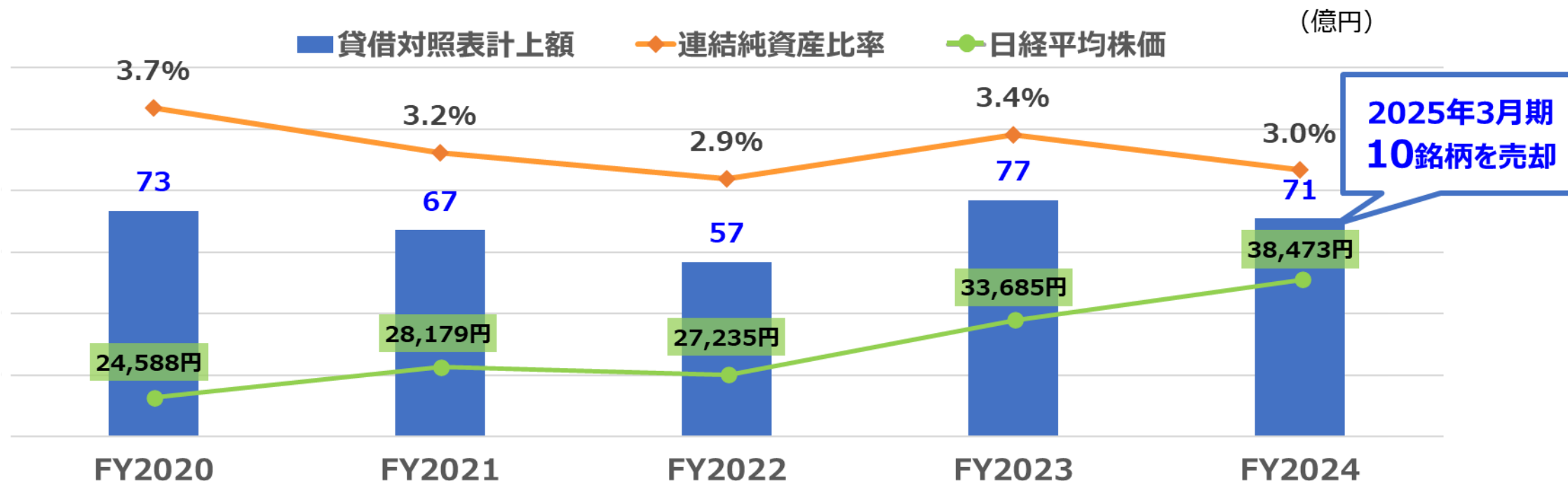
6. 政策保有株式の縮減状況

政策保有株式縮減に向けて

投資先企業の事業戦略や取引状況等を総合的に勘案し、当該企業との関係性の維持・強化が当社グループの企業価値の向上に資すると認める場合にのみ、保有する方針

過去4年間で日経平均株価が150%以上上昇する中、当社グループにおいては政策保有株式の売却を進め、2025年3月末時点における政策保有株式の連結純資産に対する割合は**3.0%**

政策保有株式の縮減状況



7. 株式を活用した人的資本経営の推進

取締役から従業員まで、株式によるインセンティブを付与し、エンゲージメントを高めることにより、企業価値向上を実現

目的	中長期的な業績向上・企業価値増大への貢献意欲の向上
ポイント	- 株主の皆さまとの価値を共有 - 報酬制度全体として業績連動性を高める - 優秀人材を登用できる競争力ある給与水準へ移行

人的資本経営のさらなる推進で
より競争力のある企業へ

取組み内容	対象者	実施時期
1. 役員報酬における株式報酬割合の引き上げ （報酬に占める割合を20%から30%へ）	監査等委員でない 社内取締役	2024年6月 （2024年度業績に対する業績報酬より反映）
2. 従業員向け株式インセンティブ制度の範囲拡大 （部長職以上から課長職以上へ対象拡大）	本社従業員（管理職） 国内子会社社長	2024年8月 （2024年度業績に対する業績報酬より反映）
3. 従業員持株会奨励金	全従業員	「10%」を導入済み

8. 株主・投資家の皆様とのエンゲージメント強化

株主・投資家との対話状況（2025年3月期）

活動内容	実績	対応者
決算説明会	4回	代表取締役社長、経営戦略本部長
証券会社主催 カンファレンス	2回	代表取締役社長、経営戦略本部長
機関投資家向けIRイベント	1回	代表取締役社長、経営戦略本部長、海外/国内カンパニー長
個別取材対応/SR対話	延べ175名	代表取締役社長、経営戦略本部長、IR担当部門

対話の主なテーマ

テーマ	主な内容
事業概要	当社の特徴・強み、シェア、市場環境
決算の状況	営業利益の増減要因、海外売上高の状況、新紙幣関連需要
事業戦略	海外事業の展望、キャッシュレス対応（新領域事業含む）
経営方針	26中計（PBR1倍：資本政策、財務戦略、株主還元）

対話を踏まえて取り入れた事項

要望事項		当社対応	内 容
資本収益性	資本コストを意識した資本収益性の改善	株主還元の充実	利益配分に関する基本方針を変更 「総還元性向100%以上（2026年3月期-2027年3月期）」を追加
IR強化	情報開示の充実	決算説明資料	投資家の関心の高い情報をトピックスとして開示
		英文開示の拡充	決算短信、決算説明資料、統合報告書の和英同時開示
	投資家の認知度向上	統合報告書の充実	投資家の意見等を反映し、さらに拡充
		スポンサード・リサーチのレポート導入	Quick/Nomuraコーポレートリサーチのレポートを導入

9. 国際会計基準（IFRS）の任意適用

2026年3月期の連結財務諸表及び連結計算書類より、従来の日本基準に替えて国際財務報告基準（以下、IFRS会計基準）を任意適用することを決定しました。

1. IFRS会計基準 任意適用の目的

財務情報の国際的な比較可能性の向上により、ステークホルダーへの皆様へ有用性の高い情報を提供すること

2. 開示スケジュール

開示時期	開示書類	会計基準
2026年5月（予定）	2026年3月期 決算短信	IFRS会計基準
2026年6月（予定）	2026年3月期有価証券報告書	IFRS会計基準

課題： 米国の通商政策に関する影響

関税措置について米国政府の施策が日々変動しているため、正確な影響額を予測することが困難な状況にあります。

当社グループの基本姿勢

「関税措置によるコスト増加分を販売価格に反映すること」を基本的なスタンスとしています。ただし、この価格転嫁が製品サービスの需要予測に与える影響については、現時点では把握できておりません。

業績予想

影響については現在精査中であり、2026年3月期の業績予想数値には当該影響を織り込んでおりません。当該影響の詳細が判明し、開示すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

04

2025年3月期 業績



2025年3月期 決算ダイジェスト

2025年3月期 連結業績 <結果>

【売上高】 **3,690** 億円

前期比 -34 億円 (-0.9%)

【営業利益】 **351** 億円 (のれん償却前利益 **438** 億円)

前期比 -160 億円 (-31.3%)

- 海外市場での販売が増加。海外売上高は過去最高（前期比+248億円）
- 国内市場は、前期発生した改造作業などの新紙幣発行対応（特別需要）の反動により減収減益も
売上高は新紙幣発行対応前である2023年3月期を上回った

2026年3月期 連結業績 <予想>

日本基準

【売上高】 **3,400** 億円

前期比 -290 億円 (-7.9%)

【営業利益】 **215** 億円 (のれん償却前利益 **300** 億円)

前期比 -136 億円 (-38.7%)

IFRS会計基準

【売上収益】 **3,400** 億円

【営業利益】 **285** 億円

2026年3月期期末決算より国際財務報告基準（IFRS会計基準）を適用予定

- 国内外においてセルフ化ニーズの継続を見込む
- 米国の通商政策による影響は、精査中のため織り込んでいない

2025年3月期 通期 実績 損益計算書

売上高

海外リテール市場向けソリューション等の販売は増加したが、国内の新紙幣関連需要の収束により減収

利益

金融市場において前期に発生した、利益率が高い新紙幣対応に伴う改造作業が減少し、営業減益利払いや為替差損等が発生し経常利益・純利益も減少

億円	通 期				前期比	期初予想進捗率
	2024年3月期	売上高 比率	2025年3月期	売上高 比率		年 間
売上高	3,724	100.0%	3,690	100.0%	-34 -0.9%	111.8%
保守売上高	1,406	37.8%	1,326	35.9%	-80 -5.7%	130.0%
営業利益	511	13.7%	351	9.5%	-160 -31.3%	159.5%
経常利益	482	12.9%	284	7.7%	-198 -41.1%	149.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	295	7.9%	160	4.3%	-135 -45.8%	160.0%
※ EBITDA	722	19.4%	592	16.0%	-130 -18.0%	135.2%
為替 レート	ドル	145 円	153 円			
	ユーロ	157 円	164 円			

※EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん償却費

2025年3月期 通期 実績

セグメント別売上高・営業利益

億円	売上高				営業利益			
	通 期		前期比	期初予想進捗率 年 間	通 期		前期比	期初予想進捗率 年 間
	2024年3月期	2025年3月期			2024年3月期	2025年3月期		
海外市場	1,852	2,100	+248 +13.4 %	109%	64	84	+20 +31.3 %	93%
金融市場	784	544	-240 -30.6 %	109%	241	86	-155 -64.3 %	172%
流通・交通 市場	747	697	-50 -6.7 %	124%	105	98	-7 -6.7 %	392%
遊技市場	282	277	-5 -1.8 %	111%	100	85	-15 -15.0 %	131%
その他	58	70	+12 +20.7 %	100%	-1	-2	-1 - %	-
合 計	3,724	3,690	-34 -0.9 %	112%	511	351	-160 -31.3 %	160%

海 外

欧米のリテール市場の好調を背景に増収。米州での収益も改善

国 内

新紙幣関連需要の収束等により、減収減益

のれん償却

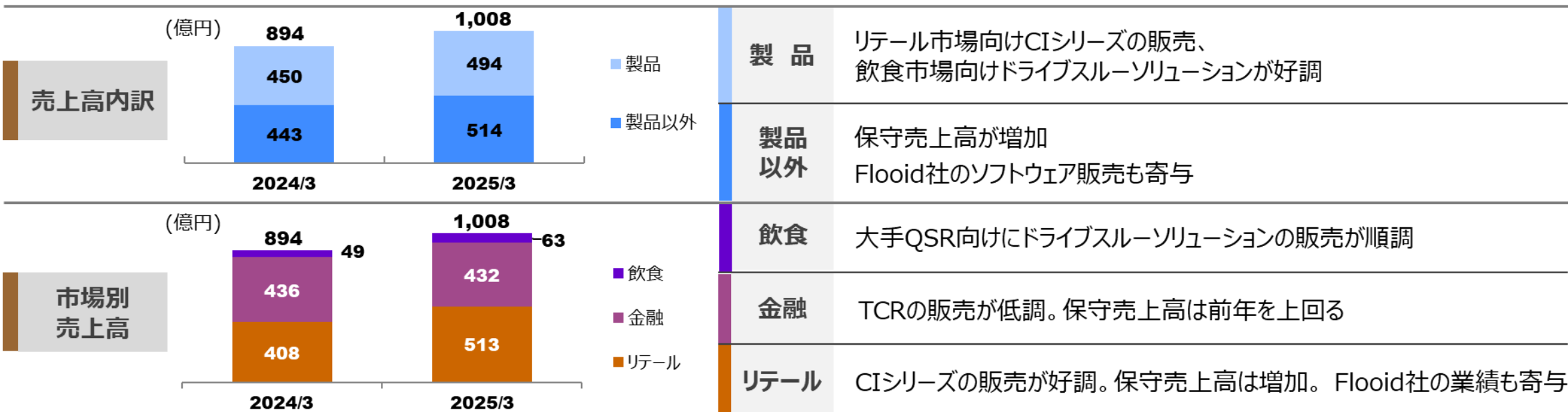
通期
のれん償却額86億円 ➡ 【のれん償却前営業利益】 海外市場：170億円 連結合計：437億円

地域別売上高 米州

億円	通 期		前年同期比	米ドルベース	期初予想進捗率 年 間
	2024年3月期	2025年3月期			
米州	894	1,008	+114 +12.8 %	+6.9%	106%
内 GGS	835	875	+40 +4.8 %	-0.6%	105%
内 Acrelec	49	63	+14 +28.6 %	+21.6%	113%
内 Flooid	10	70	+60 +600.0 %	+558.2%	123%

市場動向・TOPICS

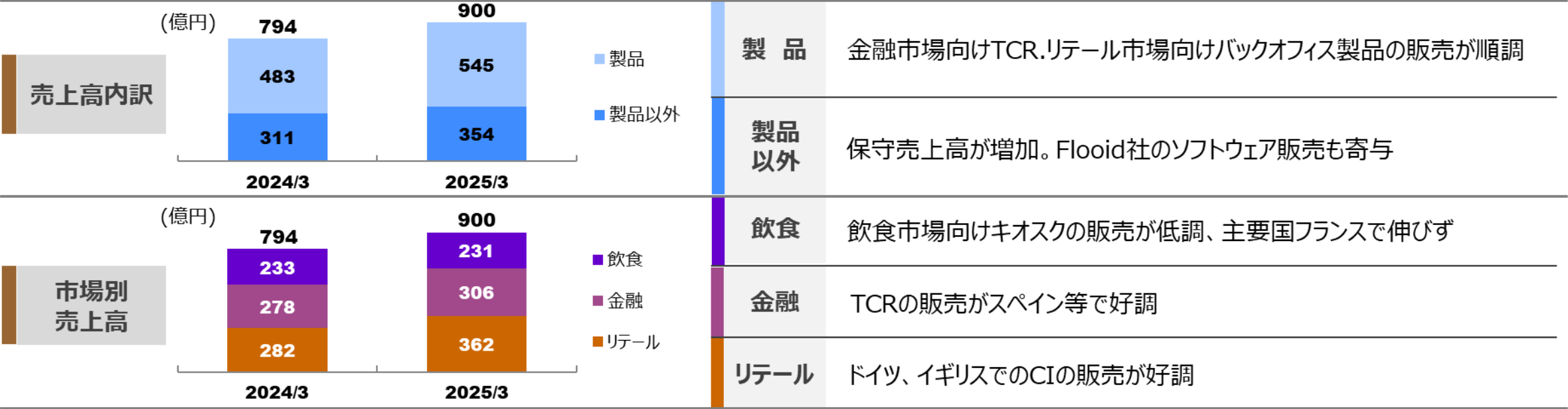
- GGS Inc.と旧Revolution社との事業統合活動を推進
- 旧Revolution社の顧客である大手リテーラーとの大口商談が順調に進捗



地域別売上高 欧州

億円	通 期		前年同期比	米ドルベース	期初予想進捗率 年 間
	2024年3月期	2025年3月期			
欧州	794	900	+106 +13.4 %	+7.3%	111%
内 GGS	414	453	+39 +9.4 %	+3.6%	114%
内 Sitrade	138	166	+28 +20.3 %	+14.0%	106%
内 Acrelec	233	231	-2 -0.9 %	-6.1%	113%
内 Flooid	9	50	+41 +455.6 %	+410.6%	94%

市場動向・TOPICS
- イタリアで金融機関向け大口案件を獲得 - ドイツ、イギリスでリテール向け製品の販売が好調 - スペイン、イギリス、スイスで金融市場向け製品の販売が好調



地域別売上高 アジア

億円	通 期		前年同期比		期初予想進捗率 年 間
	2024年3月期	2025年3月期		米ドルベース	
アジア	163	191	+28 +17.2 %	+11.2%	119%
内 GGS	147	154	+7 +4.8 %	-0.6%	110%
内 Acrelec	16	37	+21 +131.3 %	+119.2%	185%

※Acrelec社の日本国内での売上を含む

市場動向・TOPICS
日本を中心にセルフサービスキオスクの販売が好調



2026年3月期 通期 業績予想

- 売上高

欧米でリテール・飲食市場向けの販売が増加するが、国内事業は新紙幣発行対応(特需)等の反動により販売減少を予想
- 利益

海外事業の利益回復傾向は続くが、国内事業の新紙幣発行対応(特需)等の反動による売上高減少により営業減益を予想

億円	通 期				前期比
	2025年3月期	売上高 比率	2026年3月期 予想	売上高 比率	
売上高	3,690	100.0%	3,400	100.0%	-290 -7.9%
保守売上高	1,326	35.9%	1,240	36.5%	-86 -6.5%
営業利益	351	9.5%	215	6.3%	-136 -38.7%
経常利益	284	7.7%	195	5.7%	-89 -31.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	160	4.3%	100	2.9%	-60 -37.5%
EBITDA	592	44.6%	453	36.5%	-139 -23.5%

IFRS (億円)	2026年3月期 予想
売上収益	3,400
営 業 利 益	285
親会社株主に帰属する 当期利益	170
基本的 1 株当たり 当期利益	304.71円

※

為替 レート	ドル	153 円	145 円
	ユーロ	164 円	160 円

※EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん償却費

2026年3月期 通期 業績予想

セグメント別売上高・営業利益

億円	売上高			営業利益		
	通 期		前期比	通 期		前期比
	2025年3月期	2026年3月期 予想		2025年3月期	2026年3月期 予想	
海外市場	2,100	2,160	+60 +2.9 %	84	160	+76 +90.5 %
金融市場	544	370	-174 -32.0 %	86	15	-71 -82.6 %
流通・交通市場	697	610	-87 -12.5 %	98	10	-88 -89.8 %
遊技市場	277	190	-87 -31.4 %	85	35	-50 -58.8 %
その他	70	70	0 0.0 %	-2	-5	-3 - %
合 計	3,690	3,400	-290 -7.9 %	351	215	-136 -38.7 %

IFRS 2026年3月期予想（億円）	
売上高	営業利益
2,160	240
370	10
610	7
190	33
70	-5
3,400	285

海外市場

リテール、飲食の各市場での大型案件の獲得などにより増収増益を見込む

金融市場

主要製品の更新需要は一巡し、減収減益を見込む

流通・交通市場

新紙幣発行に伴う製品・サービスの反動減により減収減益を見込む

遊技市場

スマート遊技機向けカードシステムの販売はスマートパチンコ向けに移行し、一時的な需要減少を見込む

2026年3月期 通期 業績予想

海外地域別売上高

億円	通 期		前年同期比		米ドルベース
	2025年3月期	2026年3月期予想			
米州	1,008	1,060	+52	+5.2%	+10.6%
内 GGS	875	915	+40	+4.6%	+10.1%
内 Acrelec	63	70	+7	+11.1%	+16.5%
内 Flooid	70	75	+5	+7.1%	+11.8%
欧州	900	930	+30	+3.3%	+8.7%
内 GGS	451	455	+4	+0.9%	+5.9%
内 Sitrade	166	170	+4	+2.4%	+7.7%
内 Acrelec	231	250	+19	+8.2%	+13.6%
内 Flooid	50	55	+5	+10.0%	+14.4%
アジア	191	170	-21	-11.0%	-6.6%
内 GGS	154	130	-24	-15.6%	-11.3%
内 Acrelec	37	40	+3	+8.1%	+12.7%
合 計	2,100	2,160	+60	+2.9%	+8.2%
内 GGS	1,481	1,500	+19	+1.3%	+6.6%
内 Sitrade	166	170	+4	+2.4%	+7.7%
内 Acrelec	332	360	+28	+8.4%	+14.1%
内 Flooid	121	130	+9	+7.4%	+12.9%

億円	通 期		前年同期比
	2025年3月期	2026年3月期予想	
売上高	332	360	+28
米州	63 19%	70 19%	+7
欧州	231 70%	250 69%	+19
アジア	37 11%	40 11%	+3
営業利益	15	25	+10
のれん償却前	15	25	+10
のれん償却後	7	17	+1

flooid
a GLORY company

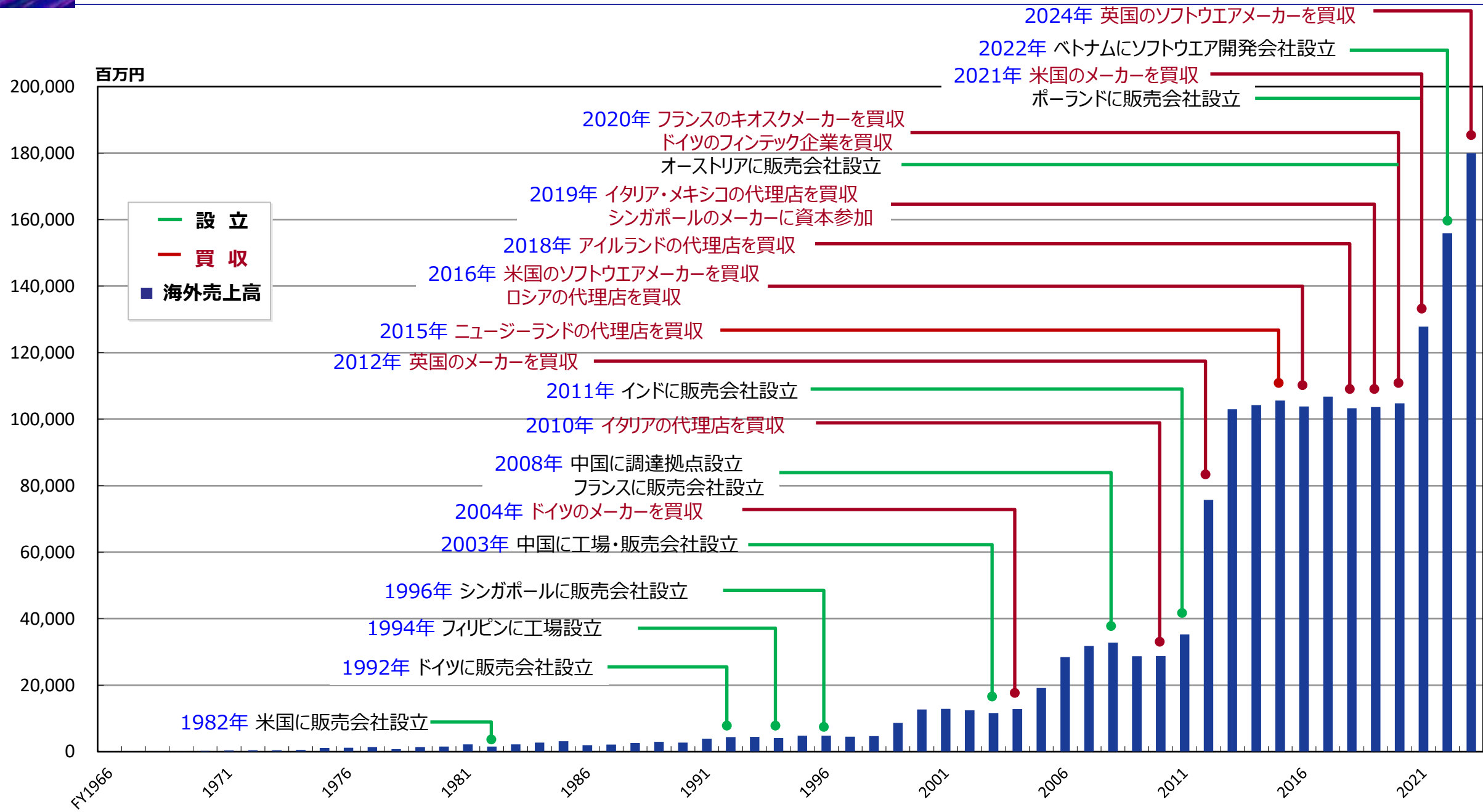
億円	通 期		前年同期比
	2025年3月期	2026年3月期予想	
売上高	121	130	+9
米州	70 58%	75 58%	+5
欧州	50 41%	55 42%	+5
営業利益	27	19	-8
のれん償却前	27	19	-8
のれん償却後	14	6	-8

※2024年3月期 第4四半期よりFlooid社を連結決算に組入れ

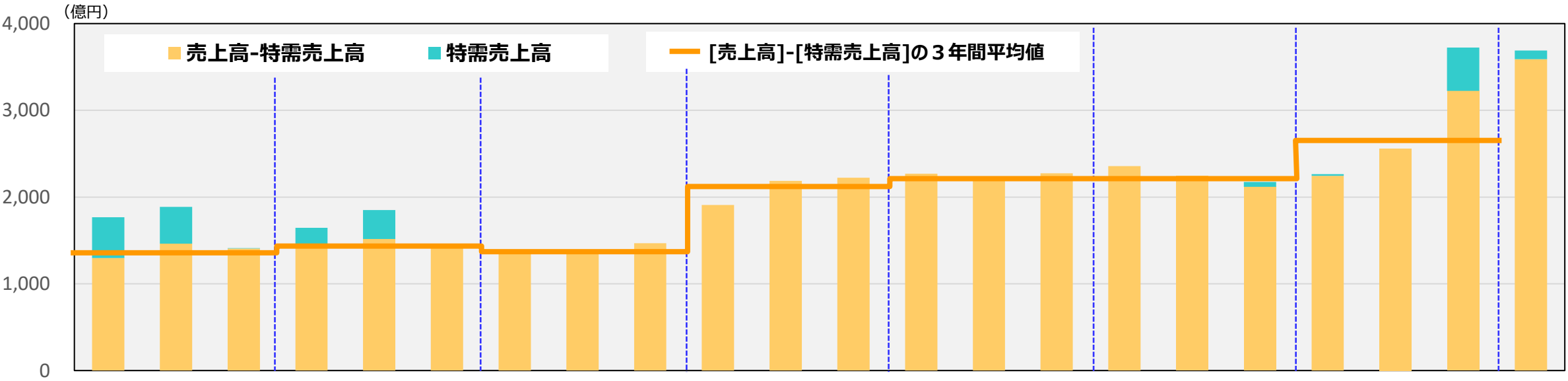
ご参考



海外展開のあゆみ

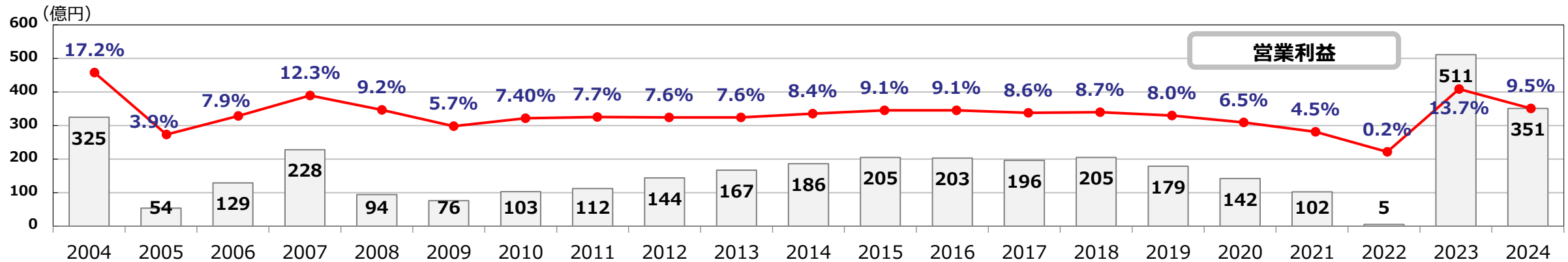
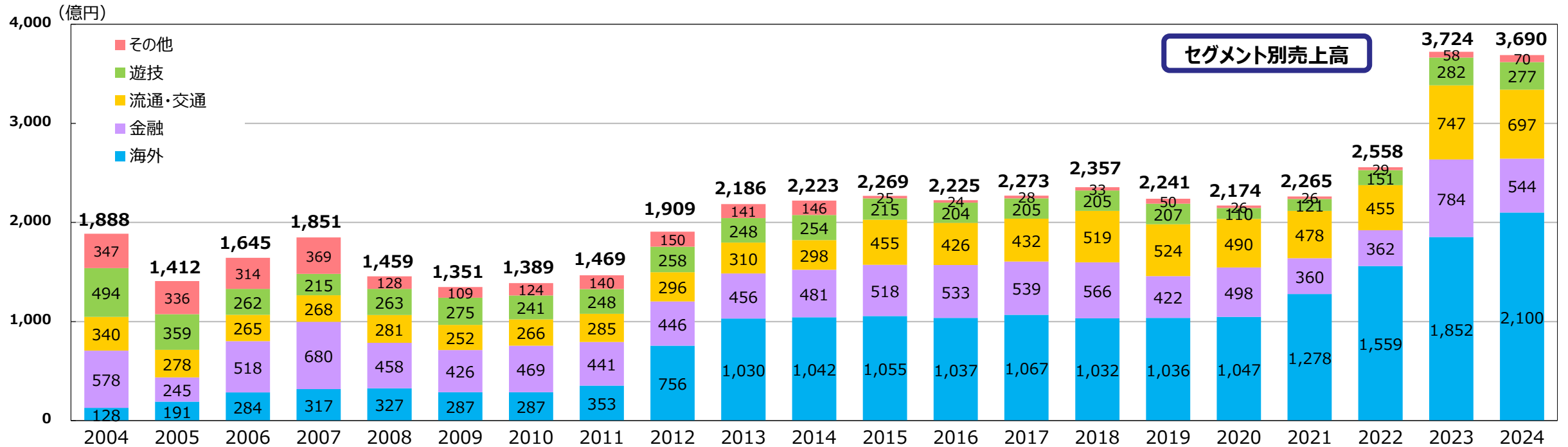


特需売上高



(億円)	FY2003	FY2004	FY2005	FY2006	FY2007	FY2008	FY2009	FY2010	FY2011	FY2012	FY2013	FY2014	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024
売上高合計 (A)	1,767	1,888	1,412	1,645	1,851	1,459	1,351	1,389	1,469	1,909	2,186	2,223	2,269	2,225	2,273	2,357	2,241	2,174	2,265	2,558	3,724	3,690
平均値	1,689			1,651			1,403			2,106			2,255			2,257			2,849			3,690
特需売上高 (B)	470	425	5	220	335	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55	20	0	500	100
特需等の要因	新紙幣発行による特需 (1万円、5千円、千円)			郵政民営化、 たばこ販売機の成人 識別対応による特需			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	新500円硬貨 発行による特需			—	新紙幣発行による 特需 (1万円、5 千円、千円)
(A)-(B)	1,297	1,463	1,407	1,425	1,516	1,459	1,351	1,389	1,469	1,909	2,186	2,223	2,269	2,225	2,273	2,357	2,241	2,119	2,245	2,558	3,224	3,590
平均値	1,389			1,466			1,403			2,106			2,255			2,239			2,675			3,590

セグメント別売上高・営業利益の推移



【注記事項】

- 1.当資料の増減率、構成比は、千万円以下を切り捨てた数値を基に算出しており、決算短信の増減率とは異なる場合があります。
- 2.2017年3月期より、事業セグメントを見直したことに伴い、従来「その他」に含まれた製品の一部を「金融市場」「流通・交通市場」に区分変更しており、当資料の前期に関する情報につきましては、変更後のセグメント区分で記載しております。
- 3.2016年3月期 第1四半期より、海外現地法人の収益及び費用の円換算方法を「期末日レート」から「期中平均レート」に変更しており、2015年3月期につきましては、遡及適用後の数値を記載しております。
- 4.本資料に記載されている、業績見通し等の将来に関する情報は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。